

日本消防



- 令和6年度 事業計画
- ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」好評放送中！
＜原 邦彰消防庁長官 出演＞
- 第30回全国消防操法大会運営委員会を開催

口 絵 令和5年度 消防功労者消防庁長官表彰

巻頭言 「進化する愛知!!」	(公財)愛知県消防協会 会長 水嶋 義弘	1
令和6年度事業計画	(公財)日本消防協会	3
日消の動き 課題いろいろ、令和6年度	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	8
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 原 邦彰消防庁長官 出演	(公財)日本消防協会	9
特別表彰「まとい」を受賞して 「郷土愛護の精神で災害に強いまちづくりを」		
	青森県 階上町消防団 団長 水合 寿一	11
東西南北 (石川県) 「住民の安全のために」	白山市北消防団 団長 山本 清	13
東西南北 (徳島県) 「自ら考え実践し、わがまちに更なる安心を」		
	石井町消防団 団長 久米 清文	15
東西南北 (宮崎県) 「自分たちの町は自分たちで守る地元消防団を目指して」		
	綾町消防団 団長 瀬口 通明	17
シンフォニー (岡山県) 「私たちはそばにいます」		
	久米南町消防団 本部分団女性部 部長 小林 礼子	19
第30回全国消防操法大会運営委員会を開催	(公財)日本消防協会	21
令和5年度消防功労者消防庁長官表彰	総務省消防庁	23
第28回 防災まちづくり大賞受賞団体の決定	総務省消防庁 地域防災室	38
消防団加入促進への取組み デジタルとリアルを融合した入団促進事業	北海道 札幌市消防団	39
消防団加入促進への取組み 消防団員と団員のご家族に感謝の気持ちを	栃木県 宇都宮市消防団	41
消防団加入促進への取組み 時代に即した消防団運営を目指して		
～10年先の消防団員のやりがい向上のために今できること～	大阪府 富田林市消防団	43
うちの名物団員	石川県、岡山県、徳島県、宮崎県	45
消防団の広場(三重県) 「時代に即した消防団のあり方を目指して」	津市消防団 団長 磯田 泰之	47

編集後記

表紙写真説明

「能登さくら駅」(石川県鳳珠郡穴水町)

「能登さくら駅」の愛称を持つ能登鹿島駅は、桜の名所としては全国的に知られており、数十本の桜のトンネルが春の訪れとともに現れます。列車が桜のトンネルを通り抜ける瞬間を一目見ようと、毎年多くの観光客で賑わい、また、その瞬間を収めるため、写真好きの方もたくさん訪れます。

また、夜桜のライトアップや、4月上旬には駅前で『さくら祭り』が行われ、多くの花見客で賑わいます。

写真提供者：穴水町

令和5年度 消防功労者消防庁長官表彰

令和6年3月4日(月)

(23頁～37頁に掲載)



進化する愛知!!

(公財)愛知県消防協会 会長 水嶋 義弘



1 愛知県の紹介

愛知県は日本列島のはほぼ中央に位置し、南は太平洋に面し、木曽川の西に三重県、北に岐阜県、三河の山々の北東に長野県、東に静岡県があります。西半分には濃尾平野^{のうび}、東半分には山々が連なる美濃三河高原があります。南には伊勢湾、三河湾という海が広がり、知多半島・渥美平野が突き出ています。また、古くから「ものづくり」が盛んな愛知県は、日本三大都市圏の一角をなしています。

愛・地球博記念公園(モリコロパーク)にある「ジブリパーク」が、2023年に「もののけの里」が開園し、今年の3月には、「魔女の谷」が加わり、新たにオープンしました。

今年の10月には、国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」が開業します。世界中から最先端の技術・サービス、人材を愛知に呼び込み、イノベーションを次々と創出することで、さらに人材が育ち集まってくる、こうした人材の好循環を生み出し、愛知はさらに進化する。

また、2026年愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けた準備が進んでいます。まだ先の話ではありますが、是非、足を運んでいただきたいと思います。

さらに、2027年のリニア中央新幹線(東京都-名古屋間)の開通に向けて、鉄道ネットワークの充実などが愛知県の政策として進められ、更なる大都市に変化し、進化しようとしています。

2 当協会の概要

愛知県消防協会は、昭和23年1月20日に設立され、平成29年4月3日に「一般財団法人」に移行、令和2年4月1日からは「公益財団法人」と変化しました。また、令和3年度までは愛知県副知事が愛知県消防協会の会長を務めていましたが、令和4年度から団長会長となり、より現場目線での活動が開始されました。現在、50支部、会員27,391人(消防職員 5,900人、消防団員21,491人)(令和5年10月1日現在)で構成されています。

全国の団員数は減少傾向にあり、令和4年4月には80万人を切り、令和5年4月には76万人まで減少しています。この10年間に約10万人減少し、この5年間で8万人減少しています。愛知県では、令和2年度から1年間に約500名ずつ減少し、令和5年4月で21,368名となっています。

全国的に団員数としては減少しているものの、女性団員、学生団員及び機能別団員は増加傾向にあります。愛知県でも同様の傾向にあり、特に学生団員は令和4年4月から令和5年4月にかけて、約300名増加しています。

3 当協会の活動

当協会は、消防団加入促進事業として、防火思想普及啓発活動、消防団員等の教養、会員の福利厚生事業、消防操法大会を行っております。

防火思想普及啓発活動は、消防団加入促進

PRとしてイベント用の啓発物品の作製及び配布、地域活動応援事業としてあいち消防団PR大使であるOS☆U(アイドルグループ)によるライブ活動、あいち消防団の日(1月20日)に消防団員加入促進PR活動を県内全域で実施しています。

消防団員等の教養としては、消防団員の育成強化として消防団員指導員研修及び女性消防団員研修を行っています。消防団員指導員研修は、各支部の幹部消防団員の中で消防団員指導員を養成する研修になります。講師の方々による講義やグループ討議を行っています。女性消防団員研修は各支部の活動発表、意見交換を行うことで交流を深めています。

消防操法大会は、全国的にも様々な意見が出ておりますが、愛知県では、団員や開催市の負担を少しでも軽減できるよう開催方法を検討しています。令和元年度までは、全出場団が開会式から閉会式まで参加し、表彰式後に解散していました。令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため大会は実施しませんでした。令和4年度及び令和5年度は、分散集合・分散解散という大会形式に変更し大会を開催しました。分散集合・分散解散は、出場団が開会式から閉会式まで会場に滞在するのではなく、各出場団の操法実施時間に合わせて来場し、操法終了後は各出場団で解散する大会形式です。開会式は、ポンプ車の部と小型ポンプの部の出場順位が1組から5組までの出場団が参加としました。閉会式及び表彰式は実施せず、後日、愛知県知事に優勝報告を実施しました。各支部からは、団員の負担軽減、テント等設営費の削減及び熱中症対策になる等の意見が多数ですが、中には全出場団が開会式から閉会式まで滞在した方が、大会が盛り上がるのではないか、という意見もあります。消防操法大会に関しては、今後も検討しながら実施する方向で考えております。

また、昨年度開催されました第25回全国女

性消防操法大会では愛知県を代表して出場した刈谷市女性消防隊が準優勝という輝かしい成績を残してくれました。大会前には刈谷市女性消防隊の訓練を一目見ようと愛知県から団員が応援に行き交流を深めることができましたと思います。刈谷市女性消防隊の活躍をきっかけに、団員として活動したいと思う方が増えることを願っております。

4 おわりに

豊かな自然と大都市名古屋を擁している愛知県では、南海トラフ地震や近年各地で発生している局地的豪雨の集中化、激甚化などの大規模自然災害の発生に危惧しています。

大規模災害が発生した際の被害の軽減には、消防団の活動が不可欠であります。特に災害発生直後は、常備消防と地域に密着した消防団が主体となり、その動員力を行使し、地域住民とともに人命救助、消火等の活動が求められています。

また、被害の軽減という観点からは、「備えあれば憂いなし」という言葉どおり、災害が来る前の備えが重要です。愛知県内の消防団は、大規模災害発生に備え、訓練・教育により消防団員の技術・知識の向上を図るとともに、住民を対象とした各種訓練、広報活動などで住民の防災意識の向上のための活動に取り組んでいます。

消防団の活動については、日本消防協会等で多岐にわたり検討されていることと思いますが、消防団活動の当事者である消防団員や所轄の消防本部等も意見を出し合い、課題を1つ1つ解決し愛知県内の団員が一丸となって前進していくことを目指しています。

社会の変化に遅れることなく、新たな取組にチャレンジしていくことが消防団の進化のきっかけになると考えております。

「進化する愛知」の実現に全力で取り組んでまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度事業計画

(公財)日本消防協会

近年、地球規模の気象環境の変化などから災害は様相を変えながら多発化、激甚化している。令和6年1月には能登半島地震により、甚大な人的・物的被害が生じたところである。

こうしたさまざまな災害に備えるためには、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨に沿った消防団体制の強化、地域の総力を結集した地域防災力の充実強化を進めなければならないが、他方、消防団については、その団員数が急激に減少するという重大な場面に直面している。

日本消防協会では、引き続き、その総力を結集して消防団員確保対策を推進していくとともに、消防団員等の福祉厚生や消防団の装備等の改善、消防防災思想の普及徹底等により、消防体制の一層の強化を推進する。また、令和6年8月に完成する新しい日本消防会館(以下「新会館」という。)が、日本消防の総合的中核拠点としての役割を十分果たしていけるよう努力していかなければならない。

令和6年度は、このような基本姿勢のもと、引き続き、以下の事業を実施するものとする。

I 公益目的事業

公益目的事業として、次の事業(これらに付随する事業を含む。)を実施する。

1. 消防団員等の福祉厚生に関する事業並びに消防殉職者及びその遺族に対する弔慰救済に関する事業

(1) 消防団員等福祉共済事業 [通年]

消防団員等が死亡し又は障害を受けた場合等に、その家族の生活を守るとともに、消防団員等の福祉を増進する総合的な共済事業を特定保険業として実施する。

本事業の実施にあたっては、近年、下降傾向にある消防団員の本共済への加入率の大幅な向上に努めるものとする。

- ① 消防団員の全員加入の推進
- ② 消防職員等の加入者増の推進
- ③ 共済金の迅速な支払い
- ④ 本共済への加入促進、加入者の事故防止に資する次の事業を附帯業務として実施
 - ・ 健康増進事業(季刊紙「いきいき消防」の発行、健康維持のための研修等の助成、都道府県消防操法大会に対する助成金交付(別掲)等)
 - ・ 大規模災害活動支援事業(消防団の大規模災害活動に対する支援等)(別掲)
 - ・ 殉職消防団員等慰霊事業(全国消防殉職者慰霊祭 [令和6年10月3日(木)]等)
 - ・ 加入促進等事業(消防資機材(車両)の交付事業、消防団活動事例集作成、女性消防団員活性化大会等)
 - ・ 全国消防団応援の店事業(関係者の協力を得つつ、全国の消防団員をサービスの対象にする「全国消防団応援の店」の取組みを推進)

(2) 女性防火クラブ員等福祉共済事業〔通年〕

女性防火クラブ員等の福祉の増進を図るための共済事業を特定保険業として実施する。

2. 大規模災害の被災地に対する見舞及び支援並びにこれらの幹旋に関する事業

大規模災害活動支援事業〔随時〕

大規模な災害の発生に際し、災害活動の情報収集にあたりとともに、被災地の消防団へ災害対策支援金等を交付する。

3. 消防活動等の表彰に関する事業

(1) 自治体消防75周年記念表彰〔令和6年11月29日(金)又は26日(火)〕

自治体消防75周年記念大会において、消防業務等に係る功績が特に顕著な者等を表彰する。

(2) 優良消防団等表彰〔令和7年3月7日(金)〕

全国消防団大会において、消防業務等に功績のあった団体及び個人を表彰する。

(3) 特別表彰〔随時〕

現場功労のあった団体及び個人並びに消防業務に特別に功労のあった者を表彰する。

4. 消防防災に係る記念事業及び大会の開催に関する事業

(1) 全国女性消防団員活性化とちぎ大会〔令和6年9月19日(木)〕

女性消防団員相互の情報交流等を通じ、女性団員としての視点を最大限に活用して地域防災力の向上に貢献することを目的に栃木県宇都宮市において開催する。

(2) 全国消防操法大会〔令和6年10月12日(土)〕

全国の消防団員の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の充実発展に寄与することを目的に、宮城県宮城郡利府町において開催する。併せて、住民等の防災啓発に資するため消防防災展等を開催する。

なお、大会前日には、消防応援団等の著名人の参加も得た激励交流会を仙台市において開催する。

(3) 防災推進国民大会〔令和6年10月19日(土)～20日(日)〕

内閣府、防災推進国民会議及び防災推進協議会の主催により熊本県熊本市において開催される「防災推進国民大会2024」に事業協力する。

(4) 地域防災活動事例報告会〔令和6年11月7日(木)〕

全国から地域防災体制の担い手の参加を募り、全国各地のこれまでの災害時の活動体験等を発表する事例報告会を新会館のニッショーホールにおいて開催する。

(5) 自治体消防75周年記念大会(再掲)〔令和6年11月29日(金)又は26日(火)〕

自治体消防75周年を記念し、消防関係者の一致団結のもと、国土を守り国民の安全を守る消防使命達成への決意を新たにするための記念大会を、新会館のニッショーホールにおいて開催する。

(6) 全国消防団大会(再掲)

消防職団員等の士気の高揚、強い団結力の醸成、ひいては地域の総合防災力の強化に寄与することを目的に、消防業務等に功績があった団体及び個人に対する表彰並びに消防防災に関する講演会を、新会館のニッショーホールにおいて実施する。

(7) 都道府県消防操法大会〔通年〕

各都道府県において開催される消防操法大会に助成金を交付する。

5. 消防防災に係る施設設備及び資機材の充実強化に関する事業

消防団防災学習・災害活動車両交付事業

平時は地域住民等に対する防災指導や防災学習に活用するとともに、災害時には人員輸送や資機材搬送などにも使用できる車両を交付する。

6. 消防団員等の教育訓練に関する事業

(1) 消防団幹部等特別研修事業

① 消防団幹部特別研修〔令和7年1月14日(火)～17日(金)〕

各都道府県から推薦された消防団長又は副団長を対象に、指導者養成のための特別研修を実施する。

② 消防団幹部候補中央特別研修〔男性の部：令和7年1月29日(水)～1月31日(金)〕

〔女性の部：令和7年2月19日(水)～2月21日(金)〕

各都道府県から推薦された、将来の幹部として期待される消防団員を対象に、幹部候補の育成を図るための研修を男女別に実施する。

③ 消防団員指導員研修〔随時〕

各都道府県消防協会と連携し、消防団員指導員の養成を行う研修を実施する。

(2) 地域の消防団実施セミナー〔随時〕

全国各地へ講師を派遣し、地域の消防団活動のあり方に関する講座を実施する。

(3) 全国消防操法大会(再掲)

(4) 全国女性消防団員活性化とちぎ大会(再掲)

(5) 都道府県消防操法大会(再掲)

7. 地域防災を支える女性防火クラブ、少年消防クラブ、自主防災組織等の活動支援に関する事業

(1) 少年消防クラブ活性化推進事業〔通年〕

(一財)日本防火・防災協会が実施する少年消防クラブ指導者研修会の開催等に協力する。

(2) ヨーロッパ青少年オリンピック派遣事業〔令和6年7月21日(日)～28日(日)〕

CTIF(国際消防救助協会)が主催し、イタリアで開催される、ヨーロッパ青少年消防オリンピックへ我が国の少年消防クラブ員を派遣し、少年消防クラブの一層の活性化と国際交流を図る。

- (3) 全国少年消防クラブ交流大会〔令和6年9月14日(土)～15日(日)〕
消防庁主催による「全国少年消防クラブ交流大会」に協力する。(兵庫県神戸市で開催予定)
- (4) 女性防火クラブ員等福祉共済事業(再掲)

8. 消防防災思想等の普及徹底及び情報の収集提供並びに雑誌図書その他の刊行頒布に関する事業

- (1) 消防団情報提供事業〔通年〕
ホームページの充実を図り、当協会の事業等の広報に努めるとともに、地域防災力の向上に資するよう全国の消防団の活動状況に関する情報等を提供する。
- (2) 機関誌「日本消防」発行事業〔通年〕
機関誌「日本消防」を毎月発行する。
- (3) ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」〔毎週〕
消防団活動を広報し、消防団員の確保等に資するため、消防応援団等の著名人をゲストに迎え、消防団員の出演によるラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」(全国30局ネットによる毎週放送)を実施する。
- (4) 日本消防防災情報センター等
日本消防の発展に影響を与えた、さまざまな災害体験(関東大震災、阪神淡路大震災等)や全国各地の取組事例等を展示して、広く多くの方々に消防防災情報の普及を図る。
また、6階には、消防関係者交流スペース「消防人 たまり場」を設け、自由な意見交換等に有効活用していただく。

9. 防火防災訓練につき市町村が行う災害補償等の共済に関する事業

防火防災訓練災害補償等共済事業

市区町村及び組合が防火防災訓練の際における事故について損害賠償又は災害補償を行う場合に、その負担をてん補することを目的とした共済事業を特定保険業として実施する。

10. 消防防災に係る調査研究に関する事業

消防団員確保対策推進本部(令和4年6月設置)がとりまとめ、国等に要望した各種意見も念頭に各委員会において調査、検討を行う。

- (1) 消防団員確保対策等委員会〔随時〕
消防団員の確保対策のあり方等について検討する。
- (2) 地震等防災対策委員会〔随時〕
現地調査を含め、地震等の災害対策のあり方について調査、検討を行う。

11. 都道府県消防協会及び消防諸団体の事業に対する協力並びにこれら団体の相互連絡に関する事業

都道府県消防協会のほか、殉職消防職団員等の子弟の育英事業を行う公益財団法人消防育英会、消防職団員の福祉厚生の一翼を担う生活協同組合全日本消防人共済会、民間防火組織の育成や防火・防災思想の普及を行う一般財団法人日本防火・防災協会、消防殉職者のご遺族の連絡組織である全国消防殉職者遺族会等に対し、事業協力を行う。[通年]

12. 消防防災に係る国際協力に関する事業

(1) 日本国内及び海外情勢をみながら、次の事業を実施する。

① 日中韓消防交流事業

ア 第37回日中消防協会定期協議会(日本)

イ 第35回中国消防視察

ウ 第13回日中韓消防協会会議(日本)

エ 中国消防協会研修視察団の受入れ

② 消防国際交流事業

海外消防事情調査やノルウェーで開催されるCTIF(国際消防救助協会)の会議等に参加するなど、海外の消防機関との情報交流等を実施する。

(2) 消防車両等国際援助事業 [通年]

開発途上国の消防力の充実強化と友好親善を促進するため、日本国内の中古消防車両の無償援助を行う。

II 収益事業

引き続き、公益目的事業の補完的役割を担う次の収益事業を実施する。

1. ニッショーホール及び会議室等を提供する事業

(1) ニッショーホール及び会議室の利用率の向上に努め収益の確保を図るとともに、公益目的事業の実施拠点となる新会館等の維持管理等に必要な財源の確保に努める。[通年]

(2) 新会館完成報告会 [令和6年10月3日(木)]

新会館の完成にご協力頂いた方々に対する謝意表明や日本消防の益々の発展に新会館を活用する決意表明などの完成報告会を開催する。

2. 消防防災に関する出版物や物品を販売する事業 [通年]

消防防災に関する出版物及び物品類の販売促進に努める。

3. 消防団員等を対象とする積み立て方式の年金事業 [通年]

消防個人年金事業についてさらなる加入促進を図り、消防団員等の老後の生活の安定と福祉の向上を図る。

課題いろいろ、令和6年度

(公助) 日本消防協会 会長 秋本敏文

令和6年、お正月早々の能登半島地震、羽田空港事故、相次ぐ火災発生には驚きましたね。その後の気象状況も不安定で、地球環境全体の変化の影響がどうなのかなど気にならざるを得ませんが、とに角、災害の様相変化、社会環境や各種技術の進化など広範な状況変化に応じて、消防全体としていろいろな対応を考えなければならないのでしょうか。そのなかで、消防活動を支える人的体制の強化も課題でしょう。消防団員の急激な減少、さらに女性防火クラブまで大巾に減少しているという状況をどう受けとめ、どう対応していくか、これは単に数の問題としてだけでなく、これまでより巾広い対応が必要になっているなかで必要な人的体制をどのようにして整えていくかを考えなければならないでしょう。また、地域防災体制を支える人材の確保は、コミュニティ振興など地域振興対策の一環として受けとめて頂くこと、地域の防災、安全確保は地域政策の基本であり、そのための消防防災活動には、巾広い住民の皆さんのご協力、ご参加が必要であることなどを広く認識して頂く必要があります。そして、女性、青少年のご参加、さらに経済界などを含めた文字通りの総参加総活躍を進めなければなりません。

そのようななか、令和6年8月中旬には、新しい日本消防会館が完成します。本当に多くの方々のご協力を頂いたおかげでやっとここまでになりましたことに、深く深く感謝申し上げます。その感謝の気持を示すうえでも、全国の皆さんを含めて新会館をご覧頂き、親しんで頂き、やっぱり改築してよかったなあと評価して頂けるように運営しなければなりません。引越しなどを終らせた後、10月上旬からいろいろなイベントを開催し、また、日本消防防災情報センターでは、全国各地のいろいろな消防活動も知って頂くなど、一般国民の皆さんにも消防活動の重要性についてご認識頂けるようにしなければなりません。

また、世界各地でこれまでと異なるさまざまな災害が発生し、各国消防はそれぞれがんばっておられますが、新会館は、こうしたことの国際的な情報交流の場としても活用し、巾広く、日本消防の一層の発展へのお役に立ちたいと思います。

このようないろいろな課題に対処しながら、日消として必要な対応をするためには、新ホールの利用拡大による収入の増加などを含めて、全体としての安定的な財政運営を確保し、また、福祉共済、年金、損害保険、消防育英会などの適切な事業運営に努力しなければなりません。また、この「日本消防」による全国各地の入団促進への動き、全国消防団応援の店の具体的な運営紹介による安定的な利用拡大などのわかりやすい広範な情報提供、間もなく開始以来十八年を迎えるラジオ放送「おはよう！ニッポン全国消防団」による全国への消防団PRなど、定例的な業務を着実に実行しなければなりません。これはこれで、本当は大変なんですけど、みんなで何とかのりこえて、いろいろな課題に対処します。

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 原邦彰消防庁長官 出演

(放送日 令和6年4月6日(土)又は7日(日))

(公財)日本消防協会



紹介

ひろたアナ：「おはよう！ニッポン全国消防団」、
改めまして今日のゲストは消防庁長
官の原 邦彰さんです。おはようご
ざいます。

原 長 官：おはようございます。

消防庁について

ひろたアナ：早速ですが、総務省消防庁はどんな
お仕事をされているところか教えて
頂けますか。

原 長 官：消防は地域の皆さんの生命と財産を
守る仕事です。
現在、全国で17万人の消防職員と76
万人の消防団員、合わせて93万人の
方々が活動しておられます。
総務省消防庁は、消防職団員の活動
を支えるための制度づくりや財政支
援を行っています。
また、大きな災害が発生した場合、
地元の消防機関だけでは対応できま
せんので、緊急消防援助隊という全
国からの応援部隊の派遣や調整な
ど、大災害対応の司令塔を担ってい
ます。

ひろたアナ：まさに日本消防の要というところで
すよね。
今回の能登半島地震でも総務省消防
庁は総力を挙げて対応されたと伺っ
ています。

原 長 官：はじめに能登半島地震でお亡くなり

になられた方々の御冥福をお祈りす
るとともに、被災された方々に心か
らお見舞い申し上げます。

発災直後から全国の消防本部に応援
をお願いし、元日から2千名近い消
防団員に緊急消防援助隊として現地
に向かっていただきました。
地元消防本部、地元消防団の方々と
力を合わせて、消火・救助・救急活
動に大変なご尽力をいただきました。
心から感謝を申し上げます。

能登半島地震における消防団の活躍

ひろたアナ：消防関係者が総力を挙げて対応され
た様子が伝わってきますが、その中
で特に消防団員の皆さんはどんな活
動をされたのでしょうか。

原 長 官：激しい揺れにより道路が寸断され、
外からの応援が困難な中、地元消防
団員の方々は、自らも被災されなが
ら、地域住民の皆様を守るべく
避難の呼び掛けや消火活動に従事さ
れ、また倒壊した建物から救助活動
を行う等、様々な活動を行っていた
されました。
まさに大災害の時こそ、消防団が頼
りになる存在です。

消防団の課題・消防庁の消防団に関する取組

ひろたアナ：消防団員の皆さんも、大変な状況の
中、活動されたのだと頭が下がる思
いです。
こうした消防団に対する消防庁とし
ての最近の取組にはどのようなもの

がありますか。

原 長 官：日本は人口も減少していますので、消防団員も減少傾向が続いています。総務省消防庁としては、今一度、原点に立ち返って消防団員の皆様の思いに寄り添い、消防団員がやりがいを持って活動できる環境づくりを進めるため、様々な取組を行っています。

例えば、デジタル技術を使ったより効率的な消防団活動を行うための取組をはじめ、若年層や女性の入団促進に向け、優良な取組をまとめた事例集を作成し、全国の皆さんにお知らせしています。

このような取組にあわせて、総務省消防庁は予算も増額しています。最近では様々な方が消防団活動に参加しやすくなるよう、「大規模災害時のみ」、あるいは「平時の防災教育のみ」など、あらかじめ活動を限定した機能別消防団制度や、消防団活動に理解があり、協力的な企業や事業所に対しての認証制度を設ける等、様々な形で消防団の加入促進を後押しする活動を行っています。

メッセージ(消防団員向け)

ひろたアナ：力強いお言葉により、消防団が身近になった方も多いのではないでしょうか。

ラジオをお聞きの消防団員の皆さんにメッセージをお願いいたします。

原 長 官：全国の消防団員の皆様が、それぞれお仕事をもちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という高い使命感の下で、一致団結してご尽力いただいていることに、改めて心から敬意を表し、感謝申し上げます。

近年、各地で災害が頻発化・激甚化する中で、今回の能登半島地震でも改めて分かりますとおり、大災害の時こそ地域住民の方々が助け合うと

いうことが大切であって、その中心に消防団がいます。

今後とも地域の安全・安心を確保するため、より一層の御協力をお願いいたします。

私たち総務省消防庁も、全力で消防団活動を支援していきます。

メッセージ(一般リスナー向け)

ひろたアナ：最後に全国でこの番組を聞いているリスナーの方にもお伝えしたいことはございますか。

原 長 官：言い古された言葉かもしれませんが、災害はいつ、どこで発生するか分かりません。

いざという時に大事なものは、日頃からの備えです。

実際に能登半島地震でも日頃から備えている地域は、大きな被害を免れています。

皆さんのまわりにも消防団をはじめ、自主防災組織、女性防火クラブ、少年消防クラブといった地域防災活動に取り組んでおられる方がたくさんいらっしゃいます。

こうした取組に目を向けていただいで、自らも地域の防災力を担う意識を持っていただけると大変心強いです。

私たち総務省消防庁も地域の防災力の充実強化に向けて、全力で取り組んでいきたいと思っています。

むすび

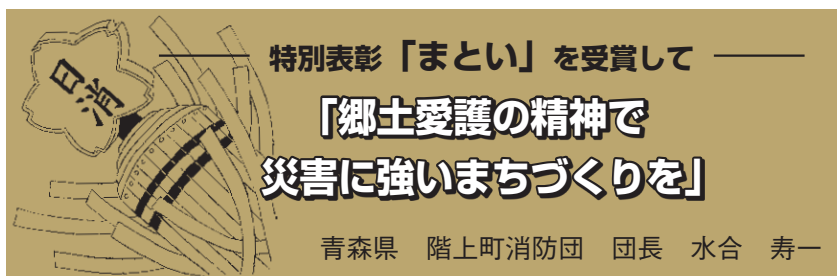
ひろたアナ：ありがとうございます。

原長官の熱い言葉が励みになった方もたくさんいらっしゃると思います。

「おはよう！ニッポン全国消防団」、消防庁長官の原 邦彰さんにお話を伺いました。

ありがとうございました。

原 長 官：どうもありがとうございました。



1 はじめに

令和6年3月8日、第76回日本消防協会定例表彰式において、消防団にとって最も誉れ高い、特別表彰「まとい」を受賞しました。

このように栄誉ある表彰を受賞したことは、我々階上町消防団だけではなく、消防関係者及び町民にとっても、この上ない喜びであり誇りであります。

これもひとえに、郷土愛護の精神のもと献身的に活動されてきた諸先輩方、消防団活動に御理解と御協力をいただいている消防団員の御家族、そして、我々消防団の傍らで御指導御鞭撻くださる常備消防及び関係各位の並々ならぬ御尽力の賜物です。改めまして心より敬意と感謝を申し上げます。

2 階上町の紹介

階上町は青森県の最東南端にあり、東は太平洋に面し、北と西は八戸市、南は岩手県に接しています。面積94km²、人口約1万3千人、山と海に囲まれた自然豊かな町です。

県境には町のシンボルである標高約740mの階上岳があり、海岸は芝生地帯、岩礁地帯と変化に富み、アウトドアレジャーの格好の場所です。

三陸復興国立公園、みちのく潮風トレイル、三陸ジオパークに指定され、巨木・古木の郷としても知られており、年間を通してたくさんの方が本町を訪れます。

また、ウニとアワビを贅沢に使用した潮汁は「いちご煮」と呼ばれ、県南地方の郷土料理

として地元から愛されています。また、はしかみわせ「階上早生」という名称のそばは、青森県唯一の奨励品種で、町の特産品となっています。

3 階上町消防団の紹介

階上町消防団は、大正11年に階上村消防組の設立から始まり、階上村警防団、階上村消防団、町制施行に伴い現在の階上町消防団となり、一昨年に設立から100年を迎えました。

現在、本部及び7個分団で組織され、団員138名、その内女性消防団員は7名となっています。

消防用車両等の設備については、防災パトロール車1台、消防トラック1台、広報車1台、ポンプ自動車7台、小型動力ポンプ7台を配備し、その他、各分団に安全対策備品などを配備して予防広報活動、消火活動や防災活動にあたっています。

4 階上町消防団の活動

階上町消防団では、「自らの地域は自ら守る」という考えのもと、火災をはじめとするあらゆる災害から、地域住民の生活を守るために日夜活動を行っています。

春と秋には全分団がポンプ自動車による巡回と火災予防の呼びかけを行い、また、地域のさまざまなイベントにおいては、管轄分団が火元警戒のために会場の見回りを行うなど、年間を通じて火災予防活動を実施しています。

さらに、消防操法技術の習得・向上にも力

を注いでおり、県内で唯一、自治体単位で消防操法大会を開催し、全国消防操法大会にも3度出場するなど、火災現場で迅速に対応できる団員の育成に励んでいます。

防火・防災思想の普及の一環としましては、少年消防クラブ員による火の用心の呼びかけや、クラブ員を対象とした津波伝承など、将来の地域防災の担い手育成・確保も兼ねて熱心に取り組んでいます。



町の消防操法大会



少年消防クラブ員による火の用心

本町は山と海に囲まれた自然豊かな町ではありますが、その反面、土砂災害や津波など、常に自然災害の脅威と隣り合わせでもあります。

また、近年は線状降水帯による豪雨災害や台風、大地震など、全国各地で災害が発生し大きな爪痕を残しています。本町も過去には幾度となく、大雨による災害や地震・津波による災害を経験してきました。

そのため、これまで階上町消防団では、町や地域と一体となって防災・減災活動に取り組んでいます。町の総合防災訓練においては、

自主防災会と連携して、土砂災害避難訓練や津波避難訓練を実施しています。

実際に、東日本大震災では、海側の分団が地震発生後いち早く海岸線へ向かい、住民を高台へ誘導、避難困難者に対して避難援助を行いました。また、大雨時には浸水被害のあった住宅地や冠水した道路の排水作業を行っています。

消防団は地域防災力の要であり、地域の安全・安心のために必要不可欠な存在です。階上町消防団としましては、郷土愛護の精神を後世に伝えながら、今後も地域防災力の向上を図るため一層精進したいと考えています。



総合防災訓練にて津波避難誘導に向かう団員



年始恒例の出初式

5 おわりに

この度の受賞にあたり、格別の御高配を賜りました日本消防協会をはじめ、青森県消防協会、階上町消防団を日頃から支えていただいている消防関係者及び御家族の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、皆様方の今後益々の御発展と御活躍を祈念申し上げ、受賞の挨拶といたします。



「住民の安全のために」



白山市北消防団 団長 山本 清

1 白山市の紹介

白山市は2005年2月1日に松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1市2町5村が合併し、新たに誕生しました。面積は754.93km²、人口はおよそ11万人です。

市内には標高2,702mを誇る白山、そこから流れる手取川があります。その自然豊かな風土が認められ、「白山手取川ジオパーク」として、2011年9月5日に日本ジオパークに、2023年5月24日にユネスコ世界ジオパークに認定されました。

また、北陸新幹線の車両基地もあり、令和6年3月には新幹線の見学施設「トレインパーク白山」がオープンしました。

スキー場などの恵まれた自然を活かした観光資源や交通の便を活かした商・工業も充実しており、市として今後ますますの発展・飛躍を期待されています。

2 白山市北消防団の紹介

白山市北消防団は、2005年2月1日の市町村合併に伴い、松任市と美川町の2つの消防団が合併し発足しました。本団と12の分団（うち女性分団1つ）から構成されており、286人の団員で構成されています。消防ポンプ自動車12台、女性分団広報車1台、軽資機材車1台を配備し、災害出動に備えています。

3 白山市北消防団の活動

白山市北消防団では、4月の辞令交付式から始まり、5月には新入団員を対象とした礼式訓練を行います。

6月には白山市、野々市市、川北町の2市1町で構成される「白山野々市川北消防連合会」において訓練大会が行われます。ポンプ車操法の部ではその大会で優勝、準優勝を収めた分団が7月に行われる県大会へと出場します。令和4年度の大会では白山市北消防団の分団が優勝を収め、県大会に出場しました。残念ながら全国大会への出場は叶いませんでしたが、日々、分団同士で競い合いながら技術の研鑽に努めています。

10月と3月には火災予防週間と合わせて市内巡回パレード、防ぎょ訓練を実施しています。防ぎょ訓練では、全分団が連携して消火訓練を行い、有事の際に備えた訓練を行っています。また、1月には消防の心意気を表す出初式を行います。他にも地区・地域の訓練に参加し、市民の防火意識の向上に努めています。

女性分団においては白山野々市広域消防本部が主催する普通救命講習や地区・地域の訓練に参加し、心肺蘇生法をレクチャーするなどの活動を行っています。



訓練大会



出初式での一斉放水



春季火災防ぎょ訓練



被災地への支援物資の受付会場での活動

4 おわりに

近年は、自然災害が多発し、火事場の活動だけでなく、「新たな災害環境」での活動が求められるようになっていきます。

有事の際には地域住民と協力しながら対応することも求められます。地域住民の皆様に顔を覚えていただくためにも地域の訓練等に参加し、積極的にコミュニケーションを行うことで、地域住民と信頼関係の構築をすること、そして、団員が消防団員としての使命感を持って活動にあたるきっかけの一つになればと思っています。

令和6年1月には「能登半島地震」が発

生し、管内においても大きな揺れがありました。安全が確保できた後に管内パトロールを実施し被害状況の確認を行い、市民の安全確保のために活動しました。

その他、避難誘導や避難所での活動、支援物資の受付会場での活動等も行いました。

いつ、何時、大きな災害が発生するかわかりません。それに備えて、日々の訓練から他分団との連携強化、技術の高め合いを行い、全団員が一丸となって市民の安全を守れるように活動していきたいと考えています。



「自ら考え実践し、 わがまちに更なる安心を」



石井町消防団 団長 久米 清文

1 石井町の紹介

石井町は、県庁所在地である徳島市の西に隣接し、地形は東西約6km、南北5.5kmのほぼ正方形で、吉野川がもたらした肥沃な平地と標高200m前後のなだらかな山地や丘陵地からなる、人口25,000人ほどのまちです。

古くから農業が盛んで、野沢菜や小松菜、ブロッコリー、ほうれん草など多種類の新鮮な野菜が供給されており、その販売を担う農産物直売所は、町内外から足を運んだ大勢の方々と賑わっています。また、石井町の花である藤は、見頃の4月下旬に開催される藤まつりや、町のイメージキャラクターであるふじっちゃんなどを通じ、町のシンボルとして親しまれています。

2 石井町消防団の紹介

石井町消防団は、団員数(条例定数)340名で組織されており、5分団下の26部に対し、各々の役割に応じてポンプ車13台、小型動力ポンプ積載車13台の車両を配備しています。コンパクトなまちであることから、分団同士の結び付きと協力意識は強く、火災発生時には、常備消防機関である名西消防組合消防本部の指揮の下、各分団が区域を越えて連携し、町内一円の安心・安全の確保に努めています。

3 石井町消防団の活動

当団は、火災現場における消火活動、鎮火後の再燃防止のための待機など火災対応を中心に、台風をはじめとする風水害時の巡視など水防団としての活動、行方不明者の搜索など、あらゆる災害等に対して幅広い役割を担っています。

年間の活動は、新年1月の出初式から始まり、年末の夜警巡回に至るまで、継続的に様々な行事を実施しています。特に、地域住民や関係機関と連携して実施しているものとして、1～2月頃に開催される町総合防災訓練、文化財防火訓練、5月下旬に行われる町内の一斉清掃活動、8月上旬の納涼夏祭りでの警戒待機などがあり、これらの地域活動の場で消防団としての役割を果たしていくことが、地域住民からの御理解と信頼を得るとともに、将来にわたる消防団の担い手確保に結びつくものと考えています。

また、年間行事の合間には、各分団が区域の地形や実情に応じた訓練を計画・実施しています。これらの各種訓練は、名西消防組合消防本部の全面的なバックアップに支えられており、昼夜平休日問わず、当団の要望に応じた的確な指導を受けられる環境が、団員の消防技術の習得・向上の源泉となっています。特に2年に1度の消防操法大会の開催年には、

早期から訓練を重ねて本番へ臨むことができ、直近に行われた令和4年の徳島県大会では、当団から出場した石井分団が、ポンプ車の部で優勝を飾ることができました。

4 自ら考え実践する 取組み

まちの消防・防災環境の充実のため、消防団が主体となって実施している取組みもあります。毎年、町からの補助金を活用し、各分団につき1箇所ずつの計5箇所、地下水を利用した打込式消火栓を整備しています。この整備に当たっては、水利が不足する箇所の確認・調査、新設箇所の地権者との交渉等、全て団員が協力し合い行っています。

また、このようにして充実させてきた打込式消火栓の更なる活用として、避難所の近隣にあるものを選定し、災害時の生活用水確保に役立てられる手押しポンプを併設しました。さらに近年は、各分団へのAEDの配備と、それに伴う救急救



消防出初式の様子



操法訓練の様子

命訓練の実施などにも力を注いでいます。このようにして団員が考え、実践する取組みが、自らの手でわがまちを守るという意識の醸成につながっていると感じています。

5 おわりに

近年、多発するとともに多様化している激甚災害。その被災地で行われる救助・救出活動をはじめとした災害対応の現場には、必ずその地域の消防団員による懸命の御努力があるものと認識しています。全国各地で活躍する同志の姿を目に浮かべ、心に刻みながら、我々石井町消防団も、地域防災の要として住民の信頼と期待に応えるべく、日々の活動に励みたいと思います。



救急救命訓練の様子



「自分たちの町は 自分たちで守る 地元消防団を目指して」



綾町消防団 団長 瀬口 通明

1 綾町の紹介

綾町は、宮崎県の中央部、宮崎市の北西に接し、総面積95.19km²を有しています。町内には日本最大級の照葉樹林が広がり、綾北川・綾南川の2つ清流がまちを挟むように流れる自然豊かな町で、2012年にユネスコエコパークにも登録されました。

基幹産業の農業においては、昭和63年に全国で初めて「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、厳しい農地や生産管理の検査基準を定め、食の安全性についていち早く官民一体となって取り組んできました。

また、温暖な気候やスポーツ施設が充実していることから、キャンプシーズンにはプロチームや社会人チームなどが訪れるスポーツが盛んなまちでもあります。

2 綾町消防団の紹介

綾町消防団は9ヶ部、女性班から組織され、条例定数210名で団員数は令和6年1月1日時点で202名です。車両は小型動力付ポンプ積載車6台、ポンプ自動車2台、水槽付きポンプ自動車1台、救助資機材搭載車1台を配備し、町民の安心安全なくらしに寄与しています。

3 綾町消防団の活動

綾町消防団は年間を通じて活動が行われており、1月の消防始め式から始まります。消防始め式では放水競技を行い、消防技術を町民に披露しています。

4月には新入団員を対象とした規律訓練、ホース搬送や放水訓練を行います。訓練にあわせて消防水利の点検を行い、



消防始め式(一斉放水)



ラッパ隊の演奏

隣接する部の消防水利の位置についても把握に努めています。

7月の消防操法大会前には恒例となっている消防団交流会を開催しています。所属部を超えて、交流を図る機会となっています。

8月には町教育委員会が夏休み中の子どもたちの見守り活動として実施する夜間パトロールにも参加しています。

年末の12月から2月にかけて、防火夜警巡視を実施し、町民に防火広報を行います。

また、ラッパ隊も町内の夏まつりなどイベントに出演し、ラッパの吹奏を通して、防火・防災意識の高揚を図っています。

これらに加えて近年は台風をはじめとした風水害への対応として水防活動、避難誘導・避難広報を地域の自治公民館や民生委員児童委員と連携し、行っています。日頃からお互いの顔が見える関係づくりを大事にしています。

さらに近年は高齢化社会に対応するため、認知症サポーターとして地域の見守り活動にも力を入れています。



認知症サポーター養成講座

4 おわりに

消防団は町民の安心・安全を支えるため、以前に比べ多くの役割が求められるようになっていきます。消防団員確保など様々な課題はありますが、団員一丸となって、消防力の維持・向上に努めていきます。



シンフォニー（岡山県） 「私たちはそばにいます」

久米南町消防団 本部分団女性部 部長 小林 礼子

1. はじめに

久米南町は、岡山県のほぼ中央に位置し、川柳の町として、また、法然上人ゆかりの誕生寺でも有名で、北庄と上粳の棚田は「日本棚田百選」に選ばれるなど、自然と文化に恵まれた町です。そのほかにも稲作を中心とする農業が盛んで、ブドウやキュウリ、ユズの産地であり、おいしい農産物などの魅力もいっぱいです。

人口は約4,400名、高齢化率は県内トップの約46%で、少子高齢化が進む町です。

2. 消防団の組織及び女性部の主な活動

久米南町消防団は、町内全域をカバーする本部分団、各地域を守る第1分団から第4分団の合計5つの分団で構成されており、令和5年4月現在238名で活動しています。私たち女性が所属する本部分団女性部は平成22年に発足。現在15名が在籍しており、職種は、看護師、介護士、栄養士など多種に渡ります。

主な活動は、災害現場での後方支援や広報活動です。応急手当普及員の資格を生かして圏域消防の方と一緒にいる保育園や小中学校での救急法や、火災等災害現場での被災された方のケア、火災予防の啓発劇や、広報車での啓蒙活動などを

行っています。

3. 消防団活動で心に残ったことと女性部の魅力

私は生まれも育ちも久米南町。母は駅前で美容院を営んでおり、小さい頃から「れいちゃん」とお客さんや近所の商店街の人に可愛がってもらいました。今では商店街もすっかり寂れてしまいましたが、当時の思い出が、この久米南町を元気にしたいという気持ちの源になっていることは言うまでもありません。

そんな中私は、広報紙の女性部員募集のチラシをみて、女性部の初期メンバーとして入団しました。

様々な活動の中でも、大きく心に残っているのは、応急手当普及員の講習です。管内の津山圏域消防組合では消防団員への初の養成ということもあり、3日間力を注いで指導してくださいました。講習で難しかったのは、「相手に伝えること」です。学校の保護者や高齢者、子どもなど相手に合わせて伝え方を変えるため、わかっていても伝えられないもどかしさから、「もうやめたい」と涙する団員もいたぐらいでした。講習受講後は、小中学校等での講習に圏域消防の方と一緒に参加しています。先日、圏域消防の方から、「久米南町の住民の方は



保育園防火パレード



想定火災防御訓練

熱心に受講される方が多く、女性部の活動が根付いていますね」と言っていたとき、とても嬉しかったです。

実現場では被災された方々のケアに携わりました。裸で逃げ出した子どもを抱きしめ毛布でくるんであげたときや、高齢の行方不明者を雨降りの中発見し男性団員と協力し介抱することができたときなど、生命の尊さを実感しました。

久米南町消防団女性部といえば、防火啓発劇です。毎年文化祭で発表してきた啓発劇では、最初は役をじゃんけんで決めないといけないくらい静かな始まりで、お互いが言いたいことも言えず、ギクシャクする場面もありましたが、回を重ねるごとに、それぞれの持つ個性を発揮できる役作りができるようになりました。

その活動を認めていただき、平成29年11月に開催された「第23回全国女性消防団員活性化広島大会」で披露する機会をいただきました。その劇で、久米南町自慢の川柳を取り入れ、久米南町の魅力が伝えられるよう工夫しました。私はなぜかスケベじいさんの役で、ズラもメイクも完璧にできるようになりました。後は大阪のおばちゃんや謎の外国人キャサリン、スケ番姐御などユニークな人物が登場します。



全国大会で

この劇を全国大会で披露するということで、みんな仕事終わりに集まって試行錯誤しながら稽古を行っていたとき、近隣の市町村の女性部の方々が差し入れを持ってくださり、とても励みになったことを覚えています。

女性部の自慢は、稽古場の雰囲気です。楽しくておかしくて、お腹の皮がよじれます。どんなに仕事で疲れていても、笑



防火啓発劇の稽古の様子

顔チャージで元気になれます。

あと、触れておかなければならないのは、出初式です。久米南町消防団の出初式は、なかなか日があたらないグラウンドで行います。最初の何年かは、あまりの寒さに「なんで私はこの寒さに耐えているのだろう」と自問自答していました。最近はみんな「耐えている自分がおもしろい。」と思えるようになってきて、「今年の寒さも丁度いいねー」と笑い飛ばしています。女性部は出席率が高いのは、言うまでもありません。



出初式

3. おわりに

どんなときも支えてくれたのは、家族や職場です。私達の活動を理解してくださり、協力してくれます。「行っておいで！」と背中を押してくれる理解者がいてくれたから、続けてこられました。

私たち久米南町消防団女性部は、それぞれがそれぞれの場所で学びながら、この小さな町で、笑顔という種を蒔き、根を張り、花を咲かせ続けていきます。どんなことがあっても、助け合って、励まし合って、思いやっていきましょう。

第30回全国消防操法大会運営委員会を開催

(公財)日本消防協会

令和6年3月8日(金)日本消防協会において、第30回全国消防操法大会運営委員会が開催され、大会の「基本方針」について協議した結果、次のとおり決定されました。

第30回全国消防操法大会基本方針

- 1 目的
全国消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の充実発展に寄与することを目的とする。
- 2 主催
総務省消防庁、公益財団法人日本消防協会
- 3 協力
宮城県、仙台市、利府町、公益財団法人宮城県消防協会、宮城県消防長会
- 4 日時
令和6年10月12日(土) 午前9時00分(雨天決行)
- 5 会場
宮城県総合運動公園 グランディ・21
宮城県宮城郡利府町菅谷字館40-1
- 6 大会運営委員等
〔別表1〕のとおり
- 7 出場隊等
(1) 出場隊は〔別表2〕のとおり、都道府県ごとにポンプ車又は小型ポンプのいずれか1隊とする。ただし、参加できない消防団がある場合は、順番を繰り上げ実施する。
(2) 出場種目については、前回大会に出場したものと異なる操法種目とする。なお、開催地である宮城県は、兩種目出場とする。
(3) 出場隊の指揮者は、班長以上の階級の者とする。
- 8 消防操法種別
(1) ポンプ車操法
ア 手びろめによる二重巻ホース2線延長(各線ホース3本)
イ とび口操作及び水出しを付加する。
ウ 収納は省略する。
(2) 小型ポンプ操法
ア 手びろめによる二重巻ホース1線延長(ホース3本)
イ とび口操作及び水出しを付加する。
ウ 収納は省略する。
(3) 操法要領は、第29回全国消防操法大会実施要領に準ずることとする。
- 9 使用ポンプ・車両及び機材
使用ポンプ、車両及び機材は、原則として出場隊が持ち込むものとする。
- 10 審査
(1) 審査基準は、消防庁及び公益財団法人日本消防協会において定める。
(2) 審査内容については非公開とする。
(3) 審査に対する苦情等は一切受理しないこととする。
(4) 大会日あるいは大会途中において、降雨等があっても審査には考慮しないものとする。
(5) 各隊の操法タイム及び総得点を公表する。
- 11 審査員
(1) 審査員の人数及び担当都道府県は、〔別表3〕のとおりとする。
(2) 審査員は、担当都道府県消防協会会長の推薦する者とする。
- 12 表彰
(1) 各操法種目とも10位までを表彰する。
(2) 優勝 各操法1隊
優勝隊には、消防庁長官賞(優勝旗は持ち回り)のほか、日本消防協会会長賞が授与される。
(3) 準優勝 各操法3隊
(4) 優良賞 各操法6隊
(5) 優秀選手賞 各操法の各操作員1名
- 13 その他
諸般の状況変化に対応して、今後、大会全般にわたり何らかの検討が必要と考えられる際は、大会運営委員会において協議する。

第30回全国消防操法大会
運営委員会等

別表1

大会運営委員長	日本消防協会理事長	北崎 秀一
大会運営副委員長	消防庁消防大学校校長	青山 忠幸
	日本消防協会常務理事	田中 豊
大会運営委員	消防庁総務課長	河合 宏一
	消防庁国民保護防災部・地域防災室長	志賀 真幸
	消防庁消防大学校副校長	大石 正年
	青森県消防協会会長	下山 正彦
	岩手県消防協会会長	佐藤 隆士
	宮城県消防協会会長	佐藤 孝義
	秋田県消防協会会長	高橋 正尚
	山形県消防協会会長	田辺 隆
	福島県消防協会会長	吉田 秀一
	新潟県消防協会会長	鈴木 守
	宮城県消防長会会長	結城 由夫
	宮城県復興・危機管理部長	千葉 章
審査長	消防庁消防大学校校長	青山 忠幸
副審査長	消防庁国民保護防災部・地域防災室長	志賀 真幸
審査員	指定都道府県消防協会会長の推薦者	28名

※審査員28名の内、計時審査を担当する審査員4名は、日本消防協会が指定する者とする。

第30回全国消防操法大会
都道府県別出場種目

別表2

出場順	ポンプ車の部	小型ポンプの部
1	長野県	岐阜県
2	高知県	愛知県
3	三重県	京都府
4	宮城県	鳥根県
5	秋田県	東京都
6	富山県	千葉県
7	埼玉県	福島県
8	栃木県	愛媛県
9	鳥取県	兵庫県
10	静岡県	佐賀県
11	北海道	石川県
12	香川県	山梨県
13	山形県	山口県
14	徳島県	広島県
15	熊本県	岡山県
16	茨城県	群馬県
17	大阪府	大分県
18	長崎県	滋賀県
19	宮崎県	宮城県
20	福岡県	岩手県
21	神奈川県	新潟県
22	沖縄県	青森県
23	和歌山県	鹿児島県
24	福井県	奈良県
計	24隊	24隊

※開催地である宮城県は両種目出場

第30回全国消防操法大会
審査員指定都道府県

別表3

ポンプ車の部審査員	小型ポンプの部審査員
青森県	北海道
岩手県	秋田県
東京都	山形県
千葉県	神奈川県
愛知県	長野県
岐阜県	静岡県
京都府	大阪府
奈良県	鳥取県
鳥根県	徳島県
山口県	高知県
大分県	福岡県
佐賀県	
鹿児島県	
13名	11名

【会議風景】



令和5年度消防功労者消防庁長官表彰

総務省消防庁

消防記念日(3月7日)にちなみ、令和6年3月4日(月)にニッショーホール(港区新橋)において、「令和5年度消防功労者消防庁長官表彰式」が挙行されました。

本表彰式において受章された消防団員は次のとおりです。

功労章を授与する消防団員(53名)

都道府県名	所 属	階級	氏 名	都道府県名	所 属	階級	氏 名
北 海 道	上川北部消防事務組合美深消防団	団長	岩 村 信 雄	愛 知 県	阿久比町消防団	団長	榎 本 龍 一
〃	渡島西部広域事務組合松前消防団	団長	岩 金 子 宏 之	〃	長久手市消防団	団長	武 田 和 久
〃	根室北部消防事務組合中標津消防団	団長	末 田 昌 隆	三 重 県	多気町消防団	団長	井 上 和 昭
〃	上川北部消防事務組合下川消防団	団長	野 崎 政 一	〃	桑名市消防団	団長	中久木 治
〃	斜里地区消防組合斜里消防団	団長	長谷川 宏 文	〃	玉城町消防団	団長	松 田 栄 二
〃	新得町新得消防団	団長	廣 瀬 顯 嗣	京 都 府	京都市中京消防団	団長	上 田 義 昭
青 森 県	弘前市消防団	団長	久 保 順 一	大 阪 府	守口市消防団	団長	やま 山 田 幾久雄
宮 城 県	松島町消防団	団長	内 海 邦 宏	〃	藤井寺市消防団	団長	吉 岡 達 雄
〃	女川町消防団	団長	佐 藤 孝 義	兵 庫 県	養父市消防団	団長	桶 井 広 之
山 形 県	天童市消防団	団長	武 田 正 悦	〃	香美町消防団	団長	今 後 武 司
福 島 県	古殿町消防団	団長	白 川 充 一	〃	相生市消防団	団長	釜 地 美 雄
茨 城 県	ひたちなか市消防団	団長	塙 健 一	〃	豊岡市城崎消防団	団長	椿 野 仁 司
埼 玉 県	宮代町消防団	団長	伊 草 稔	〃	たつの市消防団	団長	やま 山 田 好 朗
〃	志木市消防団	団長	市之瀬 初 男	奈 良 県	生駒市消防団	団長	まつ 松 本 淳
〃	羽生市消防団	団長	高 瀬 浩 一	和歌山県	紀美野町消防団	団長	佐 本 重 秋
〃	深谷市消防団	団長	坂 場 茂	鳥 取 県	伯耆町消防団	団長	大 江 國 夫
〃	横瀬町消防団	団長	平 沼 智 次	岡 山 県	高梁市消防団	団長	西 右 介
千 葉 県	香取広城市町村圏事務組合東庄町消防団	団長	岩 瀬 隆	広 島 県	尾道市消防団	団長	濱 井 忠 昭
〃	大多喜町消防団	団長	齋 藤 信 一	徳 島 県	美波町消防団	団長	口 船 敏 昭
東 京 都	練馬消防団	団長	青 柳 尚 毅	高 知 県	中芸広域連合北川村消防団	団長	井 津 信 廣
神奈川県	横浜市旭消防団	団長	内 田 隆	福 岡 県	大木町消防団	団長	中 島 豊 記
新 潟 県	上越市消防団	団長	小 川 時 雄	佐 賀 県	小城市消防団	団長	しも 下 村 一 寿
〃	阿賀野市消防団	団長	佐 藤 昭	熊 本 県	多良木町消防団	団長	杉 野 博 昭
富 山 県	砺波市消防団	団長	堀 師 富 士 夫	〃	上天草市消防団	団長	二 宮 和 雄
石 川 県	白山市南消防団	団長	中 田 啓 治	大 分 県	別府市消防団	団長	藤 内 美 伸
〃	川北町消防団	団長	西 田 時 雄	鹿児島県	薩摩川内市消防団	団長	小 牧 純 一
福 井 県	南越消防組合池田消防団	団長	やま 山 腰 敏 樹				

永年勤続功労章を授与する消防団員(1,957名)

都道府県名	所 属	階級	氏 名
北 海 道	北見地区消防組合留辺蘂消防団	団 長	坂田 司
	北広島市消防団	団 長	主 勝
	登別市消防団	団 長	力 之
	富良野広域連合占冠消防団	団 長	本 光
	岩内・寿都地方消防組合神恵内消防団	団 長	三浦 重信
	札幌市東消防団	団 長	浅 草
	中札内村消防団	副 団 長	羽 義
	石狩北部地区消防事務組合当別消防団	副 団 長	長 崎 義
	岩内・寿都地方消防組合共和消防団	副 団 長	上 上 義
	檜山広域行政組合せたな町北檜山消防団	副 団 長	長 内 有良
	北留萌消防組合焼尻消防団	副 団 長	小 野 田 見
	夕張市消防団	副 団 長	角 倉 司
	日高中部消防組合新冠消防団	副 団 長	長 倉 次
	檜山広域行政組合せたな町瀬棚消防団	副 団 長	桂 子 勝
	根室北部消防事務組合別海消防団	副 団 長	金 鹿 孝
	釧路東部消防組合厚岸消防団	副 団 長	鹿 神 徳
	富良野広域連合上富良野消防団	副 団 長	鎌 神 徳
	豊頃消防団	副 団 長	長 谷 口 敏
	網走地区消防組合東藻琴消防団	副 団 長	川 池 昭
	札幌市豊平消防団	副 団 長	田 菊 裕
	北後志消防組合仁木消防団	副 団 長	木 行 生
	南空知消防組合栗山消防団	副 団 長	長 岡 正
	砂川地区広域消防組合砂川消防団	副 団 長	長 岡 正
	滝川地区広域消防事務組合新十津川消防団	副 団 長	坂 林 敏
	檜山広域行政組合今金町消防団	副 団 長	佐 藤 照
	斜里地区消防組合斜里消防団	副 団 長	佐 藤 天
	北留萌消防組合天光消防団	副 団 長	佐 藤 弘
	大雪消防組合美瑛消防団	副 団 長	柴 垣 浩
	函館市函館消防団	副 団 長	長 岡 中 見
	旭川市消防団	副 団 長	高 島 康
	遠軽地区広域組合遠軽町消防団	副 団 長	高 橋 努
	滝川地区広域消防事務組合滝川消防団	副 団 長	竹 田 規
	浦幌町消防団	副 団 長	田 野 崎 宏
	美瑛市消防団	副 団 長	寺 宏 達
	小樽市消防団	副 団 長	寺 中 博
	根室北部消防事務組合中標津消防団	副 団 長	寺 中 鶴
	留萌消防組合小平消防団	副 団 長	成 野 田 広
	釧路東部消防組合釧路消防団	副 団 長	中 成 信
	釧路北部消防事務組合鶴居消防団	副 団 長	長 二 階 堂 勉
	江別市消防団	副 団 長	長 谷 川 豊
	北広島市消防団	副 団 長	長 谷 川 豊
	富良野広域連合中富良野消防団	副 団 長	長 谷 川 豊
	西胆振行政事務組合伊達消防団	副 団 長	馬 場 旭
	札幌市西消防団	副 団 長	平 野 昭
	陸別消防団	副 団 長	平 野 昭
	幕別町消防団	副 団 長	平 野 昭
	北見地区消防組合常呂消防団	副 団 長	藤 田 上
	日高西部消防組合日高消防団	副 団 長	藤 田 上
	檜山広域行政組合厚沢部町消防団	副 団 長	三 山 田 喜
	胆振東部消防組合厚真消防団	副 団 長	山 田 幹
	紋別地区消防組合雄武消防団	副 団 長	山 田 敏
	紋別地区消防組合紋別消防団	副 団 長	山 田 敏
	旭川市消防団	分 団 長	長 野 田 優
	稚内地区消防事務組合稚内消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	大網消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	釧路市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	札幌市清田消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	胆振東部消防組合徳別消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	稚内地区消防事務組合稚内消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	根室北部消防事務組合羅臼消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	長万部町消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	南空知消防組合南幌消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	釧路東部消防組合浜中消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	登別市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	小樽市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	恵庭市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	根室市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	室蘭市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	利尻礼文消防事務組合利尻富士町消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	増毛町消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	根室北部消防事務組合標津消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	南空知消防組合枝幸消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	士別地方消防事務組合士別市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	美幌・津別広域事務組合美幌消防団	分 団 長	長 崎 二 秀
	釧路市消防団	分 団 長	長 崎 二 秀

都道府県名	所 属	階級	氏 名
北 海 道	白老町消防団	分 団 長	高 野 藤
	南空知消防組合長沼消防団	分 団 長	高 野 藤
	滝川地区広域消防事務組合芦別消防団	分 団 長	高 野 藤
	渡島西部広域事務組合知内消防団	分 団 長	高 野 藤
	千歳市消防団	分 団 長	高 野 藤
	深川地区消防組合秩父別消防団	分 団 長	高 野 藤
	羊蹄山ろく消防組合蘭越消防団	分 団 長	高 野 藤
	鷹栖町消防団	分 団 長	高 野 藤
	渡島西部広域事務組合本古内消防団	分 団 長	高 野 藤
	函館市南茅部消防団	分 団 長	高 野 藤
	日高東部消防組合様似町消防団	分 団 長	高 野 藤
	北後志消防組合余市消防団	分 団 長	高 野 藤
	小樽市消防団	分 団 長	高 野 藤
	函館市函館消防団	分 団 長	高 野 藤
	帯広市消防団	分 団 長	高 野 藤
	羊蹄山ろく消防組合ニセコ消防団	分 団 長	高 野 藤
	南空知消防組合枝幸消防団	分 団 長	高 野 藤
	網走地区消防組合網走消防団	分 団 長	高 野 藤
	釧路北部消防事務組合標茶消防団	分 団 長	高 野 藤
	渡島西部広域事務組合福島消防団	分 団 長	高 野 藤
	旭川市消防団	分 団 長	高 野 藤
	釧路北部消防事務組合弟子屈町消防団	副 分 団 長	高 野 藤
	日高東部消防組合浦河町消防団	副 分 団 長	高 野 藤
	広尾町消防団	副 分 団 長	高 野 藤
	羊蹄山ろく消防組合真狩消防団	副 分 団 長	高 野 藤
	日高西部消防組合平取消防団	副 分 団 長	高 野 藤
	胆振東部消防組合鶴川消防団	副 分 団 長	高 野 藤
青 森 県	むつ市消防団	団 長	高 野 藤
	青森市浪岡消防団	団 長	高 野 藤
	平内町消防団	副 団 長	高 野 藤
	弘前市消防団	副 団 長	高 野 藤
	むつ市消防団	副 団 長	高 野 藤
	野辺地町消防団	副 団 長	高 野 藤
	弘前市消防団	副 団 長	高 野 藤
	西目屋村消防団	副 団 長	高 野 藤
	七戸町消防団	副 団 長	高 野 藤
	鯉ヶ沢町消防団	副 団 長	高 野 藤
	田舎館村消防団	副 団 長	高 野 藤
	東北町消防団	副 団 長	高 野 藤
	新郷村消防団	副 団 長	高 野 藤
	十和田市消防団	副 団 長	高 野 藤
	五戸町消防団	副 団 長	高 野 藤
	弘前市消防団	副 団 長	高 野 藤
	弘前市消防団	副 団 長	高 野 藤
	六ヶ所村消防団	分 団 長	高 野 藤
	南部町消防団	分 団 長	高 野 藤
	佐井村消防団	分 団 長	高 野 藤
	黒石市消防団	分 団 長	高 野 藤
	五所川原市消防団	分 団 長	高 野 藤
	五戸町消防団	分 団 長	高 野 藤
	つがる市消防団	分 団 長	高 野 藤
	中泊町消防団	分 団 長	高 野 藤
	階上町消防団	分 団 長	高 野 藤
	青森市青森消防団	分 団 長	高 野 藤
	南部町消防団	分 団 長	高 野 藤
	深浦町消防団	分 団 長	高 野 藤
	八戸市消防団	分 団 長	高 野 藤
	五所川原市消防団	分 団 長	高 野 藤
	平川市消防団	分 団 長	高 野 藤
	黒石市消防団	分 団 長	高 野 藤
	横浜町消防団	分 団 長	高 野 藤
	蓬田村消防団	分 団 長	高 野 藤
	つがる市消防団	分 団 長	高 野 藤
	鶴田町消防団	分 団 長	高 野 藤
	十和田市消防団	分 団 長	高 野 藤
	東通村消防団	分 団 長	高 野 藤
	田子町消防団	分 団 長	高 野 藤
	三戸町消防団	分 団 長	高 野 藤
	六戸町消防団	分 団 長	高 野 藤
	青森市青森消防団	分 団 長	高 野 藤
	八戸市消防団	分 団 長	高 野 藤
	大間町消防団	分 団 長	高 野 藤
	平川市消防団	分 団 長	高 野 藤
	藤崎町消防団	分 団 長	高 野 藤
	三沢市消防団	分 団 長	高 野 藤

都道府県名	所 属	階級	氏 名
青 森 県	おいらせ町消防団	分 団 長	保上 順一
	大鰐町消防団	分 団 長	三浦 隆彦
	板柳町消防団	分 団 長	三木 八橋
	八戸市消防団	分 団 長	山田 雅一
	青森市青森消防団	分 団 長	横内 内彦
	風間浦村消防団	副分団長	横浜 辺男
	岩手県	分 団 長	大井 入弘
	葛巻町消防団	副 団 長	荒見 谷一
	一戸町消防団	副 団 長	青藤 彦一
	北上市消防団	副 団 長	千藤 安夫
岩 手 県	大船渡市消防団	副 団 長	千子 葉子
	滝沢市消防団	副 団 長	堀江 上徹
	花巻市消防団	副 団 長	堀江 上徹
	雫石町消防団	副 団 長	山本 本一
	宮古市消防団	分 団 長	泉伊 見一
	一関市消防団	分 団 長	伊藤 智一
	八幡平市消防団	分 団 長	伊藤 由一
	釜石市消防団	分 団 長	今野 俊一
	住田町消防団	分 団 長	及川 浩一
	一関市消防団	分 団 長	大倉 栄一
	宮古市消防団	分 団 長	小野 守一
	盛岡市消防団	分 団 長	小野 守一
	野田村消防団	分 団 長	加賀 則一
	宮古市消防団	分 団 長	加賀 則一
	久慈市消防団	分 団 長	野田 喜一
	洋野町消防団	分 団 長	川尻 敏一
	中町消防団	分 団 長	川尻 敏一
	遠野市消防団	分 団 長	菊池 邦一
	奥州市消防団	分 団 長	菊池 幸一
	北上市消防団	分 団 長	菊池 幸一
	岩泉町消防団	分 団 長	北館 隆一
	西和賀町消防団	分 団 長	黒田 淳一
	奥州市消防団	分 団 長	小泉 公一
	宮古市消防団	分 団 長	小中 勝一
	普代村消防団	分 団 長	小中 勝一
	岩泉町消防団	分 団 長	小口 健一
	奥州市消防団	分 団 長	小口 健一
	奥州市消防団	分 団 長	小口 健一
	岩手町消防団	分 団 長	佐々木 一
	遠野市消防団	分 団 長	佐々木 一
	宮古市消防団	分 団 長	佐藤 良一
	盛岡市消防団	分 団 長	四戸 勝一
	二戸市消防団	分 団 長	田中 雄一
	久慈市消防団	分 団 長	幸田 典一
	釜石市消防団	分 団 長	菅原 昭一
	遠野市消防団	分 団 長	菅原 昭一
	奥州市消防団	分 団 長	菅原 昭一
	田野畑村消防団	分 団 長	菅原 昭一
	久慈市消防団	分 団 長	砂川 男一
	花巻市消防団	分 団 長	高田 博一
	二戸市消防団	分 団 長	高田 博一
	金ヶ崎町消防団	分 団 長	高田 博一
	奥州市消防団	分 団 長	高田 博一
	平泉町消防団	分 団 長	高田 博一
	盛岡市消防団	分 団 長	高田 博一
	軽米町消防団	分 団 長	高田 博一
	陸前高田市消防団	分 団 長	高田 博一
	宮古市消防団	分 団 長	高田 博一
	宮古市消防団	分 団 長	高田 博一
	宮古市消防団	分 団 長	高田 博一
	遠野市消防団	分 団 長	高田 博一
	花巻市消防団	分 団 長	高田 博一
	盛岡市消防団	分 団 長	高田 博一
	花巻市消防団	分 団 長	高田 博一
	山田町消防団	分 団 長	高田 博一
	紫波町消防団	分 団 長	高田 博一
	軽米町消防団	分 団 長	高田 博一
	盛岡市消防団	分 団 長	高田 博一
	久慈市消防団	分 団 長	高田 博一
	盛岡市消防団	分 団 長	高田 博一
	九戸村消防団	分 団 長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	岩手町消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一

都道府県名	所 属	階級	氏 名
岩 手 県	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	大槌町消防団	副分団長	高田 博一
	一関市消防団	副分団長	高田 博一
	大郷町消防団	副分団長	高田 博一
	東松島市消防団	副分団長	高田 博一
	石巻市消防団	副分団長	高田 博一
宮 城 県	石巻市消防団	副分団長	高田 博一
	亶理町消防団	副分団長	高田 博一
	仙台市泉消防団	副分団長	高田 博一
	登米市消防団	副分団長	高田 博一
	石巻市消防団	副分団長	高田 博一
	白石市消防団	副分団長	高田 博一
	大崎市消防団	副分団長	高田 博一
	登米市消防団	副分団長	高田 博一
	大和町消防団	副分団長	高田 博一
	登米市消防団	副分団長	高田 博一
	角田市消防団	副分団長	高田 博一
	栗原市消防団	副分団長	高田 博一
	南三陸町消防団	副分団長	高田 博一
	柴田町消防団	副分団長	高田 博一
	栗原市消防団	副分団長	高田 博一
	丸森町消防団	副分団長	高田 博一
	気仙沼市消防団	副分団長	高田 博一
	栗原市消防団	副分団長	高田 博一
	気仙沼市消防団	副分団長	高田 博一
	美里町消防団	副分団長	高田 博一
	蔵王町消防団	副分団長	高田 博一
	加美町消防団	副分団長	高田 博一
	大崎市消防団	副分団長	高田 博一
	大崎市消防団	副分団長	高田 博一
	気仙沼市消防団	副分団長	高田 博一
	塩竈市消防団	副分団長	高田 博一
	川崎町消防団	副分団長	高田 博一
	大崎市消防団	副分団長	高田 博一
	大崎市消防団	副分団長	高田 博一
	仙台市秋保消防団	副分団長	高田 博一
	仙台市宮城消防団	副分団長	高田 博一
	色麻町消防団	副分団長	高田 博一
	仙台市秋保消防団	副分団長	高田 博一
	大河原町消防団	副分団長	高田 博一
	村田町消防団	副分団長	高田 博一
	涌谷町消防団	副分団長	高田 博一
	栗原市消防団	副分団長	高田 博一
	色麻町消防団	副分団長	高田 博一
	多賀城市消防団	副分団長	高田 博一
	三種町消防団	副分団長	高田 博一
	横手市消防団	副分団長	高田 博一
	湯上市消防団	副分団長	高田 博一
	八峰町消防団	副分団長	高田 博一
	大館市消防団	副分団長	高田 博一
	大仙市消防団	副分団長	高田 博一
	秋田市消防団	副分団長	高田 博一
	北秋田市消防団	副分団長	高田 博一
	大仙市消防団	副分団長	高田 博一
	にかほ市消防団	副分団長	高田 博一
	大仙市消防団	副分団長	高田 博一
	大仙市消防団	副分団長	高田 博一
	五城目町消防団	副分団長	高田 博一
	八郎潟町消防団	副分団長	高田 博一
	仙北市消防団	副分団長	高田 博一
	能代市消防団	副分団長	高田 博一
	横手市消防団	副分団長	高田 博一
	北秋田市消防団	副分団長	高田 博一
	大館市消防団	副分団長	高田 博一
	仙北市消防団	副分団長	高田 博一
	秋田市消防団	副分団長	高田 博一
	羽後町消防団	副分団長	高田 博一
	能代市消防団	副分団長	高田 博一
	由利本荘市消防団	副分団長	高田 博一
	大湯村消防団	副分団長	高田 博一
	秋田市消防団	副分団長	高田 博一
	鹿角市消防団	副分団長	高田 博一

都道府県名	所 属	階級	氏 名
秋 田 県	蕨里町消防団	分 団 長	齋 藤 隆 雄
	男鹿市消防団	分 団 長	勝 佐 樹 正
	由利本荘市消防団	分 団 長	佐 藤 孝 康
	横手市消防団	分 団 長	栗 田 孝 康
	横手市消防団	分 団 長	菅 原 充 彦
	由利本荘市消防団	分 団 長	須 田 充 彦
	男鹿市消防団	分 団 長	照 和 彦
	横手市消防団	分 団 長	高 橋 美 人
	東成瀬村消防団	分 団 長	高 橋 美 人
	湯沢市消防団	分 団 長	高 橋 喜 信
	井川町消防団	分 団 長	角 裕 幸
	男鹿市消防団	分 団 長	戸 澤 幸 一
	美郷町消防団	分 団 長	島 山 喜 人
	鹿角市消防団	分 団 長	藤 澤 進 一
	秋田市消防団	分 団 長	藤 澤 進 一
	大仙市消防団	分 団 長	松 木 勇 一
	秋田市消防団	分 団 長	保 坂 上 憲 四
	由利本荘市消防団	分 団 長	目 時 上 勝 浩
	小坂町消防団	分 団 長	柳 沢 誠 一
	横手市消防団	分 団 長	渡 辺 森 一
	鹿角市消防団	分 団 長	柳 沢 誠 一
	由利本荘市消防団	分 団 長	渡 辺 森 一
	大館市消防団	分 団 長	工 藤 雅 秀
	由利本荘市消防団	分 団 長	阿 部 夫 部
山 形 県	山形市消防団	分 団 長	阿 部 夫 部
	新庄市消防団	分 団 長	安 部 山 野
	長井市消防団	分 団 長	奥 山 野 寺
	山形市消防団	分 団 長	岸 野 政 一
	鶴岡市消防団	分 団 長	藤 木 昭 夫
	山形市消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	鶴岡市消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	酒田市消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	東根市消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	酒田市消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	酒田市消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	戸沢村消防団	分 団 長	阿 部 山 野
	小国町消防団	分 団 長	伊 藤 芳 一
	小国町消防団	分 団 長	伊 藤 芳 一
	舟形町消防団	分 団 長	小 野 林 地
	鶴岡市消防団	分 団 長	小 野 林 地
	河北町消防団	分 団 長	小 野 林 地
	最上町消防団	分 団 長	岸 野 政 一
	酒田市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	村山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	中山町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	山辺町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	庄内町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	白鷹町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	真室川町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	遊佐町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	河北町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	金山町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	飯豊町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	鮭川村消防団	分 団 長	山 野 政 一
	鶴岡市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	大蔵村消防団	分 団 長	山 野 政 一
	米沢市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	鶴岡市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	戸沢村消防団	分 団 長	山 野 政 一
	遊佐町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	真室川町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	尾花沢市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	酒田市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	新庄市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	大石田町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	最上町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	南陽市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	尾花沢市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	川西町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	舟形町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	米沢市消防団	分 団 長	山 野 政 一

都道府県名	所 属	階級	氏 名
山 形 県	酒田市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	福島市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	鏡石町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	大熊町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	柳津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	相馬市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	白河市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	白河市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	玉川村消防団	分 団 長	山 野 政 一
	矢吹町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	伊達市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	矢吹町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	須賀川市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	南会津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	小野町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	福島市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	柳津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	南会津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	西会津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	檜葉町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	田村市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	檜葉町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	いわき市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	二本松市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	いわき市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	いわき市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	白河市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	浪江町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	双葉町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	大熊町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	南相馬市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	西会津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	喜多方市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	福島市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	福島市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	塩町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	新地町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	広野町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	福島市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	いわき市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	大熊町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	矢祭町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	伊達市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	いわき市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	喜多方市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	伊達市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	広野町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	郡山市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	田村市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	いわき市消防団	分 団 長	山 野 政 一
茨 城 県	桜川市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	下妻市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	神栖市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	神栖市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	水戸市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	つくば市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	取手市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	稲敷市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	筑西市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	日立市消防団	分 団 長	山 野 政 一
山 形 県	酒田市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	福島市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	鏡石町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	大熊町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	柳津町消防団	分 団 長	山 野 政 一
	相馬市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	白河市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	白河市消防団	分 団 長	山 野 政 一
	玉川村消防団	分 団 長	山 野 政 一
	矢吹町消防団	分 団 長	山 野 政 一

都道府県名	所 属	階級	氏 名
埼 玉 県	さいたま市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	さいたま市消防団	副分団長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	行田市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	戸田市消防団	副分団長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	行田市消防団	副分団長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	戸田市消防団	副分団長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	志木市消防団	副分団長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	松伏町消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	川口市消防団	部 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	朝霞市消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	神川町消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	吉川市消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	伊奈町消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
千 葉 県	横芝光町消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	南房総市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	神崎町消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	長生郡市広域市町村圏組合消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	旭市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	市原市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	松戸市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	大多喜町消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	市原市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	東金市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	香取広域市町村圏事務組合香取市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	長生郡市広域市町村圏組合消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	船橋市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	市原市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	佐倉市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	山武市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	我孫子市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	佐倉市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	九十九里町消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	館山市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	印西市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	勝浦市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	流山市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	山武市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	千葉市消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	八街市消防団	副分団長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	八街市消防団	部 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	栄町消防団	班 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	西街道市消防団	班 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	市川市消防団	班 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	市川市消防団	班 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	酒々井町消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	市川市消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	酒々井町消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	八街市消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	酒々井町消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
〃	栄町消防団	団 員	大 夫 勝 之 三 郎
東 京 都	杉並消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	荒川消防団	分 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	成城消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	矢口消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	葛西消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	橘原村消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	光が丘消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	日本橋消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	目黒消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	牛込消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	新宿消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	府中市消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	大井消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	神田消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	江戸川消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	野方消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	中野消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	板橋消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	本田消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	四谷消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	奥多摩町消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	千住消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	小岩消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	足立消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	滝野川消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	深川消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎
〃	玉川消防団	副 団 長	大 夫 勝 之 三 郎

都道府県名	所 属	階級	氏 名
東京都	浅草消防団	副団長	武竹中
	日野市消防団	副団長	田原高
	渋谷消防団	副団長	中嶋俊
	品川消防団	副団長	中嶋博
	蒲田消防団	副団長	中嶋陽
	石神井消防団	副団長	中嶋中
	荏原消防団	副団長	中嶋治
	新島村新島消防団	副団長	井坂信
	小石川消防団	副団長	井坂博
	武蔵野市消防団	副団長	田本博
	赤羽消防団	副団長	田本久
	臨港消防団	副団長	二谷大
	志村消防団	副団長	井口弘
	荻窪消防団	副団長	山本光
	麹町消防団	副団長	長和栄
	本郷消防団	副団長	長渡達
	高輪消防団	分団長	生田生
	向島消防団	分団長	井奥桶
	八丈町消防団	分団長	奥山也
	上野消防団	分団長	小林昭
	京橋消防団	分団長	小井義
	城東消防団	分団長	中野淳
	田園調布消防団	分団長	永野信
	日本堤消防団	分団長	中野信
	池袋消防団	分団長	坂受司
	芝消防団	分団長	毛倉重
	西新井消防団	分団長	矢倉三
	金町消防団	分団長	山本芳
	町田市消防団	副分団長	高木本
	世田谷消防団	部 長	世田武
	小平市消防団	団 員	磯野康
	多摩市消防団	団 員	小島治
	昭島市消防団	団 員	小島雄
	西東京市消防団	団 員	是枝由
	大島町消防団	団 員	是枝由
神奈川県	寒川町消防団	団 長	天利一
	三浦市消防団	団 長	伊藤藤
	横浜市加賀町消防団	団 長	高橋伸
	相模原市消防団	副団長	長井春
	厚木市消防団	副団長	石川良
	清川村消防団	副団長	川田美
	横浜市旭消防団	副団長	川原秀
	相模原市消防団	副団長	長木弘
	横浜市西消防団	副団長	長半田
	箱根町消防団	副団長	長平津
	鎌倉市消防団	副団長	長澤規
	川崎市宮前消防団	分団長	池沼弘
	川崎市中原消防団	分団長	池沼雅
	横浜市旭消防団	分団長	井上田
	横浜市神奈川消防団	分団長	井上野
	横浜市港南消防団	分団長	白田寛
	川崎市多摩消防団	分団長	長遠藤
	横浜市戸塚消防団	分団長	大野勝
	横浜市伊勢佐木消防団	分団長	長小野
	横浜市戸塚消防団	分団長	長小野
	横浜市南消防団	分団長	長木下
	川崎市麻生消防団	分団長	長高来
	逗子市消防団	分団長	長竹村
	横浜市山手消防団	分団長	長田中
	横浜市港北消防団	分団長	長田中
	横浜市金沢消防団	分団長	長外川
	横須賀市消防団	分団長	長野地
	横浜市金沢消防団	分団長	長本明
	平塚市消防団	分団長	長瀬川
	厚木市消防団	分団長	長瀬川
	横浜市港南消防団	分団長	長増村
	横浜市磯子消防団	分団長	長瀬川
	秦野市消防団	分団長	長森柳
	横須賀市消防団	分団長	長矢野
	秦野市消防団	分団長	長矢野
	横浜市加賀町消防団	分団長	長吉部
	横浜市港北消防団	分団長	長吉部
	横浜市磯子消防団	副分団長	長岩友
	横浜市鶴見消防団	副分団長	長藤友
	横浜市南消防団	副分団長	長志村
	横浜市栄消防団	副分団長	長須藤
	横浜市栄消防団	副分団長	長須藤

都道府県名	所 属	階級	氏 名
神奈川県	横浜市青葉消防団	副分団長	林原芳
	横浜市都筑消防団	副分団長	木田芳
	横浜市瀬谷消防団	副分団長	木田芳
	横浜市泉消防団	副分団長	木田芳
	藤沢市消防団	副分団長	木田芳
	横浜市緑消防団	部 長	木田芳
	横浜市神奈川消防団	部 長	木田芳
	横浜市保土ヶ谷消防団	部 長	木田芳
	横浜市保土ヶ谷消防団	部 長	木田芳
	横須賀市消防団	班 員	木田芳
	小田原市消防団	団 員	木田芳
	大和市消防団	団 員	木田芳
	茅ヶ崎市消防団	団 員	木田芳
	小田原市消防団	団 員	木田芳
	大和市消防団	団 員	木田芳
	海老名市消防団	団 員	木田芳
新潟県	新潟市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	燕市消防団	副団長	小野塚
	見附市消防団	副団長	小野塚
	村上市消防団	副団長	小野塚
	魚沼市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	南魚沼市消防団	副団長	小野塚
	南魚沼市消防団	副団長	小野塚
	佐渡市消防団	副団長	小野塚
	阿賀町消防団	副団長	小野塚
	加茂市消防団	副団長	小野塚
	妙高市消防団	副団長	小野塚
	燕市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	糸魚川市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	三条市消防団	副団長	小野塚
	糸魚川市消防団	副団長	小野塚
	田上町消防団	副団長	小野塚
	上越市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	佐渡市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	聖籠町消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	柏崎市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	佐渡市消防団	副団長	小野塚
	十日町市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	妙高市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	佐渡市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	弥彦村消防団	副団長	小野塚
	糸魚川市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	佐渡市消防団	副団長	小野塚
	糸魚川市消防団	副団長	小野塚
	新潟市消防団	副団長	小野塚
	小千谷市消防団	副団長	小野塚
	佐渡市消防団	副団長	小野塚
	妙高市消防団	副団長	小野塚
	長岡市消防団	副団長	小野塚
	柏崎市消防団	副分団長	小野塚
	柏崎市消防団	副分団長	小野塚
	新潟市消防団	副分団長	小野塚
	柏崎市消防団	副分団長	小野塚
	湯沢町消防団	副分団長	小野塚
	新潟市消防団	副分団長	小野塚
	新潟市消防団	副分団長	小野塚
	柏崎市消防団	副分団長	小野塚
	十日町市消防団	副分団長	小野塚
	柏崎市消防団	副分団長	小野塚

都道府県名	所 属	階級	氏 名
新 潟 県	柏崎市消防団	部 長	山 和 紀
	十日町市消防団	班 長	田 澤 幸 夫
	五泉市消防団	班 長	野 田 紀 幸
	胎内市消防団	団 員	高 橋 基 夫
	十日町市消防団	団 員	高 橋 三 津
富 山 県	長岡市消防団	団 員	野 尾 勉
	出雲崎町消防団	団 員	浅 野 川 正
	富山市消防団	副 団 長	浅 石 弘 一
	南砺市消防団	副 団 長	大 石 角 一
	入善町消防団	副 団 長	神 畑 村 一 宏
	立山町消防団	副 団 長	神 畑 村 一 宏
	南砺市消防団	副 団 長	神 畑 村 一 宏
	高岡市消防団	副 団 長	北 五 郎 善 隆
	射水市消防団	副 団 長	五 郎 善 隆
	富山市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	高岡市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	射水市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	高岡市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	富山市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	滑川市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	富山市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	小矢部市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	高岡市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	射水市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
石 川 県	上市町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	高岡市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	射水市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	魚津市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	富山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	黒部市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	野々市市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	穴水町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	志賀町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	能登町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	川北町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	津幡町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	津幡町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	内灘町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	小松市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	加賀市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	七尾市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	珠洲市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
福 井 県	中能登町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	金沢市第一消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	白山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	かほく市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	輪島市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	大野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	嶺北消防組合あわら消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	福井市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	南越消防組合越前市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	若狭消防組合高浜消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	福井市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	南越消防組合池田消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	敦賀美方消防組合敦賀消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	勝山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	福井市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	南越消防組合越前市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	南越消防組合池田消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	勝山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
山 梨 県	道志村消防団	団 員	堀 澤 田 司 人
	甲府市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	富士河口湖町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	甲府市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	上野原市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	北杜市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	上野原市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	北杜市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	上野原市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	北杜市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	上野原市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	韮崎市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	甲府市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	身延町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	甲府市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	身延町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	甲府市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	甲斐市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長 野 県	分 団 長	堀 澤 田 司 人

都道府県名	所 属	階級	氏 名
長 野 県	辰野町消防団	団 員	堀 澤 田 司 人
	白馬村消防団	団 員	堀 澤 田 司 人
	木曽町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	佐久市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	売木村消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	軽井沢町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	木曽町消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	生坂村消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	長野市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
岐 阜 県	各務原市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	東白川村消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	瑞穂市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	瑞穂市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	羽島市消防団	副 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市南消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	揖斐川町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	郡上市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	郡上市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	飛騨市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市北消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	多治見市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市北消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	郡上市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	高山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
静 岡 県	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市北消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	高山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	高山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市北消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市北消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	白川村消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市北消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	下呂市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	飛騨市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	高山市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	中津川市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市南消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	岐阜市南消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	御殿場市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	西伊豆町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	焼津市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	浜松市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	静岡市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	西伊豆町消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	熱海市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人
	熱海市消防団	分 団 長	堀 澤 田 司 人

都道府県名	所 属	階級	氏 名
静岡県	静岡市消防団	副団長	山本 文志
	静岡市消防団	分団長	山本 敬礼
	沼津市消防団	分団長	奥村 千寿
	湖西市消防団	分団長	小堀 之樹
	小豆町消防団	分団長	梶原 嘉樹
	富士宮市消防団	分団長	林 優成
	吉田町消防団	分団長	駒野 隆彦
	富士市消防団	分団長	佐野 吉秀
	静岡市消防団	分団長	新井 秀一
	静岡市消防団	分団長	鈴木 秀一
	富士市消防団	分団長	関本 幸夫
	静岡市消防団	分団長	田中 幸明
	静岡市消防団	分団長	田中 功一
	静岡市消防団	分団長	鍋田 久真
	藤枝市消防団	分団長	福山 剛徳
	富士宮市消防団	分団長	渡辺 進松
	富士市消防団	分団長	渡辺 和
	藤枝市消防団	班 員	川口 里子
	三島市消防団	班 員	下村 清
	伊東市消防団	班 員	石川 克彦
愛知県	名古屋市鶴舞消防団	団 長	大河 巧
	大名古屋市消防団	団 長	澤合 美樹
	名古屋大清水消防団	団 長	河小 基
	名古屋瀬古消防団	団 長	小島 修
	名古屋福春消防団	団 長	小竹 隆志
	名古屋猪子石消防団	団 長	内藤 賀二
	名古屋森橋消防団	団 長	内藤 賀二
	名古屋しまだ消防団	団 長	羽原 良二
	名古屋中小田井消防団	団 長	田中 尚
	名古屋豊臣消防団	団 長	水野 誠人
	名古屋陽明消防団	団 長	加藤 直人
	豊田市消防団	副団長	近藤 藤雄
	稲沢市消防団	副団長	近藤 藤雄
	岡崎市梅園消防団	副団長	近藤 藤雄
	豊明市消防団	副団長	近藤 藤雄
	岡崎市矢作消防団	副団長	近藤 藤雄
	一宮市消防団	分団長	近藤 藤雄
	稲沢市消防団	分団長	近藤 藤雄
	豊山町消防団	分団長	近藤 藤雄
	一宮市消防団	分団長	近藤 藤雄
	清須市消防団	分団長	近藤 藤雄
	岩倉市消防団	分団長	近藤 藤雄
	豊山町消防団	副分団長	近藤 藤雄
	豊山町消防団	副分団長	近藤 藤雄
	瀬戸市消防団	副分団長	近藤 藤雄
	瀬戸市消防団	副分団長	近藤 藤雄
	瀬戸市消防団	副分団長	近藤 藤雄
	豊山町消防団	部 長	近藤 藤雄
	一宮市消防団	部 長	近藤 藤雄
	一宮市消防団	部 長	近藤 藤雄
	一宮市消防団	部 長	近藤 藤雄
	豊田市消防団	班 員	近藤 藤雄
	豊田市消防団	班 員	近藤 藤雄
	扶桑町消防団	班 員	近藤 藤雄
	豊田市消防団	班 員	近藤 藤雄
	一宮市消防団	班 員	近藤 藤雄
	一宮市消防団	班 員	近藤 藤雄
	江南市消防団	班 員	近藤 藤雄
	小牧市消防団	班 員	近藤 藤雄
	安城市消防団	班 員	近藤 藤雄
	稲沢市消防団	班 員	近藤 藤雄
	豊田市消防団	班 員	近藤 藤雄
	安城市消防団	班 員	近藤 藤雄
	豊田市消防団	班 員	近藤 藤雄
	一宮市消防団	班 員	近藤 藤雄
	豊田市消防団	班 員	近藤 藤雄
三重県	明和町消防団	団 長	西村 弘明
	伊勢市消防団	副団長	西村 弘明
	いなべ市消防団	副団長	西村 弘明
	名張市消防団	副団長	西村 弘明
	玉城町消防団	副団長	西村 弘明
	鳥羽市消防団	副団長	西村 弘明
	多気町消防団	副団長	西村 弘明
	大紀町消防団	副団長	西村 弘明
	熊野市消防団	副団長	西村 弘明
	津市消防団	副団長	西村 弘明

都道府県名	所 属	階級	氏 名
三重県	菰野町消防団	副団長	前田 善孝
	桑名市消防団	副団長	前田 善孝
	亀山市消防団	副団長	前田 善孝
	尾鷲市消防団	副団長	前田 善孝
	四日市市消防団	副団長	前田 善孝
	四日市市消防団	副団長	前田 善孝
	伊賀市消防団	副団長	前田 善孝
	紀宝町消防団	副団長	前田 善孝
	鈴鹿市消防団	副団長	前田 善孝
	松阪市消防団	副団長	前田 善孝
滋賀県	紀北町消防団	副団長	前田 善孝
	米原市消防団	副団長	前田 善孝
	草津市消防団	副団長	前田 善孝
	大津市消防団	副団長	前田 善孝
	米原市消防団	副団長	前田 善孝
	豊郷町消防団	副団長	前田 善孝
	日野町消防団	副団長	前田 善孝
	長浜市消防団	副団長	前田 善孝
	多賀町消防団	副団長	前田 善孝
	甲良町消防団	副団長	前田 善孝
京都府	東近江市消防団	副団長	前田 善孝
	長浜市消防団	副団長	前田 善孝
	南丹市消防団	副団長	前田 善孝
	木津川市消防団	副団長	前田 善孝
	長岡京市消防団	副団長	前田 善孝
	京都市伏見消防団	副団長	前田 善孝
	福知山市消防団	副団長	前田 善孝
	京都市下京消防団	副団長	前田 善孝
	京丹波町消防団	副団長	前田 善孝
	大山崎町消防団	副団長	前田 善孝
大阪府	京丹後市消防団	副団長	前田 善孝
	京都市中京消防団	副団長	前田 善孝
	南丹市消防団	副団長	前田 善孝
	久御山町消防団	副団長	前田 善孝
	南丹市消防団	副団長	前田 善孝
	京都市西京消防団	副団長	前田 善孝
	京都市左京消防団	副団長	前田 善孝
	福知山市消防団	副団長	前田 善孝
	福知山市消防団	副団長	前田 善孝
	宮津市消防団	副団長	前田 善孝

都道府県名	所 属	階級	氏 名
大 阪 府	寝屋川市消防団	副分団長	松 明 治
	松原市消防団	副分団長	岡 瀬 仁
	摂津市消防団	団 員	和 逸 郎
	箕面市消防団	団 員	見 雄 一
	箕面市消防団	団 員	東 藤 也
	寝屋川市消防団	団 員	橋 本 也
	守口市消防団	団 員	藤 本 司
	寝屋川市消防団	団 員	南 野 廣
	摂津市消防団	団 員	吉 岡 一
	三木市消防団	団 員	井 立 悟
	丹波市消防団	副 団 長	足 石 康
	たつの市消防団	副 団 長	井 上 誠
	上郡町消防団	副 団 長	今 井 和
	豊岡市城崎消防団	副 団 長	北 井 博
	西脇市消防団	副 団 長	長 北 龍
	養父市消防団	副 団 長	長 局 一
	養父市消防団	副 団 長	長 鷹 一
	淡路市消防団	副 団 長	長 清 毅
	芦屋市消防団	副 団 長	長 中 一
	豊岡市豊岡消防団	副 団 長	長 西 智
兵 庫 県	淡路市消防団	副 団 長	長 藤 孝
	朝来市消防団	副 団 長	長 原 一
	川西市消防団	副 団 長	長 古 政
	六甲市消防団	副 団 長	長 松 昌
	淡路市消防団	副 団 長	長 田 徹
	六甲市消防団	副 団 長	長 宗 一
	豊岡市但東消防団	副 団 長	長 八 義
	朝来市消防団	副 団 長	長 山 太郎
	姫路市飾磨消防団	分 団 長	長 新 居 一
	加古川市消防団	分 団 長	長 池 内 武
	赤穂市消防団	分 団 長	長 井 上 健
	相生市消防団	分 団 長	長 井 上 志
	香美町消防団	分 団 長	長 今 宿 昭
	姫路市姫路西消防団	分 団 長	長 今 岩 圭
	加東市消防団	分 団 長	長 植 木 也
	川西市消防団	分 団 長	長 植 木 好
	淡路市消防団	分 団 長	長 岡 野 澤
	赤穂市消防団	分 団 長	長 奥 康
	洲本市消防団	分 団 長	長 海 道 一
	神戸市西消防団	分 団 長	長 陰 山 俊
	神戸市西消防団	分 団 長	長 梶 川 信
	養父市消防団	分 団 長	長 後 本 藤
	姫路市姫路東消防団	分 団 長	長 藤 富 哉
	新温泉町消防団	分 団 長	長 小 南 重
	加古川市消防団	分 団 長	長 小 佐 之
	加東市消防団	分 団 長	長 高 田 男
	高砂市消防団	分 団 長	長 高 竹 玉
	尼崎市消防団	分 団 長	長 西 島 田
	西宮市消防団	分 団 長	長 上 正 男
	神戸市北消防団	分 団 長	長 上 正 男
	姫路市網干消防団	分 団 長	長 上 寺 一
	尼崎市消防団	分 団 長	長 田 純
	神戸市兵庫消防団	分 団 長	長 村 均
	養父市消防団	分 団 長	長 中 美 樹
	洲本市消防団	分 団 長	長 中 尾 浩
	新温泉町消防団	分 団 長	長 中 村 栄
	加古川市消防団	分 団 長	長 成 川 浩
	神戸市中央消防団	分 団 長	長 成 村 哲
	神戸市灘消防団	分 団 長	長 西 山 重
	香美町消防団	分 団 長	長 馬 場 壽
	加東市消防団	分 団 長	長 廣 畑 利
	猪名川町消防団	分 団 長	長 福 畑 夫
	尼崎市消防団	分 団 長	長 堀 純
	三田市消防団	分 団 長	長 中 山 純
	尼崎市消防団	分 団 長	長 丸 山 純
	西宮市消防団	分 団 長	長 水 貴 志
	伊丹市消防団	分 団 長	長 津 口 夫
	神戸市北消防団	分 団 長	長 南 前 裕
	神戸市須磨消防団	分 団 長	長 南 前 信
	神戸市長田消防団	分 団 長	長 宮 内 孝
	高砂市消防団	分 団 長	長 山 本 純
	西宮市消防団	分 団 長	長 山 本 隆
	洲本市消防団	分 団 長	長 山 横 道
	川西市消防団	分 団 長	長 山 横 道
	三田市消防団	副分団長	副分団長 山 角 勝
	新温泉町消防団	副分団長	副分団長 山 角 勝
	猪名川町消防団	副分団長	副分団長 山 角 勝

都道府県名	所 属	階級	氏 名
兵 庫 県	赤穂市消防団	副分団長	高 島 光
	明石市消防団	副分団長	井 水 田 雄
	明石市消防団	副分団長	井 水 田 雄
	小野市消防団	副分団長	井 水 田 雄
	猪名川町消防団	副分団長	井 水 田 雄
	明石市消防団	副分団長	井 水 田 雄
	香美町消防団	班 長	井 水 田 雄
	宝塚市消防団	団 員	井 水 田 雄
	小野市消防団	団 員	井 水 田 雄
	太子町消防団	団 員	井 水 田 雄
奈 良 県	宇陀市消防団	副 団 長	大 高 雄
	吉野町消防団	副 団 長	大 高 雄
	斑鳩町消防団	副 団 長	大 高 雄
	明日香村消防団	副 団 長	大 高 雄
	大淀町消防団	副 団 長	大 高 雄
	平群町消防団	副 団 長	大 高 雄
	斑鳩町消防団	副 団 長	大 高 雄
	御所市消防団	副 団 長	大 高 雄
	大淀町消防団	副 団 長	大 高 雄
	十津川村消防団	副 団 長	大 高 雄
	川西市消防団	副 団 長	大 高 雄
	宇陀市消防団	副 団 長	大 高 雄
	平群町消防団	副 団 長	大 高 雄
	大和郡山市消防団	副 団 長	大 高 雄
	宇陀市消防団	分 団 長	大 高 雄
	奈良市消防団	分 団 長	大 高 雄
	五條市消防団	分 団 長	大 高 雄
	十津川村消防団	分 団 長	大 高 雄
	五條市消防団	分 団 長	大 高 雄
	大淀町消防団	分 団 長	大 高 雄
和 歌 山 県	大和郡山市消防団	分 団 長	大 高 雄
	五條市消防団	分 団 長	大 高 雄
	宇陀市消防団	分 団 長	大 高 雄
	五條市消防団	分 団 長	大 高 雄
	大和郡山市消防団	分 団 長	大 高 雄
	五條市消防団	分 団 長	大 高 雄
	川上村消防団	分 団 長	大 高 雄
	橋本市消防団	分 団 長	大 高 雄
	九度山町消防団	分 団 長	大 高 雄
	日高川町消防団	分 団 長	大 高 雄
	和歌山市消防団	分 団 長	大 高 雄
	白浜町消防団	分 団 長	大 高 雄
	那智勝浦町消防団	分 団 長	大 高 雄
	印南町消防団	分 団 長	大 高 雄
	白浜町消防団	分 団 長	大 高 雄
	和歌山市消防団	分 団 長	大 高 雄
	田辺市消防団	分 団 長	大 高 雄
	有田市消防団	分 団 長	大 高 雄
	田辺市消防団	分 団 長	大 高 雄
	御坊市消防団	分 団 長	大 高 雄
鳥 取 県	田辺市消防団	分 団 長	大 高 雄
	串本町消防団	分 団 長	大 高 雄
	白浜町消防団	分 団 長	大 高 雄
	有田川町消防団	分 団 長	大 高 雄
	白浜町消防団	分 団 長	大 高 雄
	紀の川市消防団	分 団 長	大 高 雄
	串本町消防団	分 団 長	大 高 雄
	新宮市消防団	分 団 長	大 高 雄
	橋本市消防団	分 団 長	大 高 雄
	智頭町消防団	分 団 長	大 高 雄
	智頭町消防団	分 団 長	大 高 雄
	八頭町消防団	分 団 長	大 高 雄
	智頭町消防団	分 団 長	大 高 雄
	倉吉市消防団	分 団 長	大 高 雄
	米子市消防団	分 団 長	大 高 雄
	鳥取市消防団	分 団 長	大 高 雄
	三朝町消防団	分 団 長	大 高 雄
	倉吉市消防団	分 団 長	大 高 雄
	倉吉市消防団	分 団 長	大 高 雄
	鳥取市消防団	分 団 長	大 高 雄
	米子市消防団	分 団 長	大 高 雄
	伯耆町消防団	分 団 長	大 高 雄
	倉吉市消防団	分 団 長	大 高 雄

都道府県名	所 属	階級	氏 名
鳥 取 県	倉吉市消防団	分 団 長	津 川 波 幸 彦
	松江市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	安来市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	松江市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	浜田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	大田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	江津市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	益田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	益田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	邑南町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	江津市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	松江市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	浜田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	益田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	益田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	邑南町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	出雲市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	雲南市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	大田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	吉賀町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	奥出雲町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	松江市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美郷町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	飯南町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津和野町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	邑南町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	浜田市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
岡 山 県	倉敷市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	勝央町消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	備前市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	総社市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	備前市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美作市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	吉備中央町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	総社市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	瀬戸内市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	玉野市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新庄村消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	吉備中央町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	高梁市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	吉備中央町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	赤磐市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	笠岡市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	鏡野町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	鏡野町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	鏡野町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	総社市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	高梁市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	赤磐市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美作市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	矢掛町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美作市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	岡山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	総社市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	備前市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	高梁市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦

都道府県名	所 属	階級	氏 名
岡 山 県	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	和気町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	和気町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	赤磐市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	備前市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	赤磐市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	和気町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	赤磐市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	吉備中央町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	瀬戸内市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美咲町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	和気町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	高梁市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	笠岡市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	倉敷市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	備前市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	津山市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	新見市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美咲町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	備前市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	美咲町消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	真庭市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
	総社市消防団	分 団 長	津 川 幸 彦
広 島 県	竹原市消防団	団 長	津 川 幸 彦
	福山市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	府中町消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	呉市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	熊野町消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	呉市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	呉市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三次市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三次市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	東広島市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	坂町消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	庄原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	尾道市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	呉市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	庄原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	庄原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	福山市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	庄原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	尾道市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	福山市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	広島市安佐北消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	坂町消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三次市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	呉市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	呉市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	尾道市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三原市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	広島市安佐北消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	広島市南消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	東広島市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	広島市東消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	広島市安佐南消防団	副 団 長	津 川 幸 彦
	三次市消防団	副 団 長	津 川 幸 彦

都道府県名	所 属	階級	氏 名
広島県	福山市消防団	分 団 長	川 司 徳
	呉市消防団	分 団 長	金 眞 道
	廿日市市消防団	分 団 長	川 政 文
	呉市消防団	分 団 長	関 田 善 夫
	竹原市消防団	分 団 長	鬼 田 防 志
	呉市消防団	分 団 長	木 草 之 稔
	海田町消防団	分 団 長	丸 九 史
	三次市消防団	分 団 長	丸 九 史
	尾道市消防団	分 団 長	丸 九 史
	尾道市消防団	分 団 長	丸 九 史
	安芸高田市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三原市消防団	分 団 長	丸 九 史
	東広島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	福山市消防団	分 団 長	丸 九 史
	広島市南消防団	分 団 長	丸 九 史
	廿日市市消防団	分 団 長	丸 九 史
	広島市安佐北消防団	分 団 長	丸 九 史
	三原市消防団	分 団 長	丸 九 史
	尾道市消防団	分 団 長	丸 九 史
	東広島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	呉市消防団	分 団 長	丸 九 史
	福山市消防団	分 団 長	丸 九 史
	安芸高田市消防団	分 団 長	丸 九 史
	福山市消防団	分 団 長	丸 九 史
	東広島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	東広島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三原市消防団	分 団 長	丸 九 史
	大竹市消防団	分 団 長	丸 九 史
	呉市消防団	分 団 長	丸 九 史
	福山市消防団	分 団 長	丸 九 史
	江田島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	呉市消防団	分 団 長	丸 九 史
	北広島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	安芸太田町消防団	分 団 長	丸 九 史
	東広島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	尾道市消防団	分 団 長	丸 九 史
	府中市消防団	分 団 長	丸 九 史
	広島市西消防団	分 団 長	丸 九 史
	竹原市消防団	分 団 長	丸 九 史
	広島市佐伯消防団	分 団 長	丸 九 史
	江田島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	広島市南消防団	分 団 長	丸 九 史
	府中市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三次市消防団	分 団 長	丸 九 史
	府中市消防団	分 団 長	丸 九 史
	神石高原町消防団	分 団 長	丸 九 史
	安芸太田町消防団	分 団 長	丸 九 史
	大竹市消防団	分 団 長	丸 九 史
	安芸太田町消防団	分 団 長	丸 九 史
	府中市消防団	分 団 長	丸 九 史
	府中市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三次市消防団	分 団 長	丸 九 史
	安芸太田町消防団	分 団 長	丸 九 史
	北広島町消防団	分 団 長	丸 九 史
山口県	周防大島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	周南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	周防大島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	岩国市消防団	分 団 長	丸 九 史
	美祿市消防団	分 団 長	丸 九 史
	山口市消防団	分 団 長	丸 九 史
	岩国市消防団	分 団 長	丸 九 史
	山口市消防団	分 団 長	丸 九 史
	山口市消防団	分 団 長	丸 九 史
	宇部市消防団	分 団 長	丸 九 史
	平生町消防団	分 団 長	丸 九 史
	周南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	宇部市消防団	分 団 長	丸 九 史
	柳井市消防団	分 団 長	丸 九 史
	柳井市消防団	分 団 長	丸 九 史
	萩市消防団	分 団 長	丸 九 史
	防府市消防団	分 団 長	丸 九 史
	岩国市消防団	分 団 長	丸 九 史
	周防大島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	山陽小野田市消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿武町消防団	分 団 長	丸 九 史
	光市消防団	分 団 長	丸 九 史
	下関市消防団	分 団 長	丸 九 史

都道府県名	所 属	階級	氏 名
山口県	山口市消防団	分 団 長	丸 九 史
	萩市消防団	分 団 長	丸 九 史
	下関市消防団	分 団 長	丸 九 史
	萩市消防団	分 団 長	丸 九 史
	宇部市消防団	分 団 長	丸 九 史
	萩市消防団	分 団 長	丸 九 史
	田布施町消防団	分 団 長	丸 九 史
	下関市消防団	分 団 長	丸 九 史
	下松市消防団	分 団 長	丸 九 史
	周防大島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	山陽小野田市消防団	分 団 長	丸 九 史
	萩市消防団	分 団 長	丸 九 史
	周南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	岩国市消防団	分 団 長	丸 九 史
	美祿市消防団	分 団 長	丸 九 史
	長門市消防団	分 団 長	丸 九 史
	萩市消防団	分 団 長	丸 九 史
	岩国市消防団	分 団 長	丸 九 史
	下松市消防団	分 団 長	丸 九 史
	長門市消防団	分 団 長	丸 九 史
	周防大島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	宇部市消防団	分 団 長	丸 九 史
	岩国市消防団	分 団 長	丸 九 史
	山口市消防団	分 団 長	丸 九 史
	下関市消防団	分 団 長	丸 九 史
	美祿市消防団	分 団 長	丸 九 史
	周南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	上関町消防団	分 団 長	丸 九 史
徳島県	板野東部消防組合消防団	分 団 長	丸 九 史
	板野東部消防組合消防団	分 団 長	丸 九 史
	吉野川市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三好市山城町消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿波市消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿波市消防団	分 団 長	丸 九 史
	美馬市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三好市池田町消防団	分 団 長	丸 九 史
	美馬西部消防組合消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	神山町消防団	分 団 長	丸 九 史
	三好市山城町消防団	分 団 長	丸 九 史
	神山町消防団	分 団 長	丸 九 史
	海陽町消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三好市山城町消防団	分 団 長	丸 九 史
	美馬市消防団	分 団 長	丸 九 史
	牟岐町消防団	分 団 長	丸 九 史
	徳島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三好市井川町消防団	分 団 長	丸 九 史
	美馬西部消防組合消防団	分 団 長	丸 九 史
香川県	徳島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	海陽町消防団	分 団 長	丸 九 史
	美馬西部消防組合消防団	分 団 長	丸 九 史
	美波町消防団	分 団 長	丸 九 史
	美馬市消防団	分 団 長	丸 九 史
	阿南市消防団	分 団 長	丸 九 史
	徳島市消防団	分 団 長	丸 九 史
	坂出市消防団	分 団 長	丸 九 史
	丸亀市消防団	分 団 長	丸 九 史
	善通寺市消防団	分 団 長	丸 九 史
	九亀市消防団	分 団 長	丸 九 史
	小豆島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	直島町消防団	分 団 長	丸 九 史
	綾川町消防団	分 団 長	丸 九 史
	善通寺市消防団	分 団 長	丸 九 史
	東かがわ市消防団	分 団 長	丸 九 史
	東かがわ市消防団	分 団 長	丸 九 史
	高松市消防団	分 団 長	丸 九 史
	さぬき市消防団	分 団 長	丸 九 史
	九亀市消防団	分 団 長	丸 九 史
	坂出市消防団	分 団 長	丸 九 史
	三豊市消防団	分 団 長	丸 九 史
	まんのう町消防団	分 団 長	丸 九 史
	さぬき市消防団	分 団 長	丸 九 史
	多度津町消防団	分 団 長	丸 九 史
	宇多津町消防団	分 団 長	丸 九 史

都道府県名	所 属	階級	氏 名
高 知 県	香美市消防団	副団長	長 尾 正 雅 司
〃	香南市消防団	副団長	長 崎 新一 和 昭 仁
〃	中芸広域連合安田町消防団	副団長	長 松 正 正 光 弘 一
〃	中芸広域連合馬路村消防団	副団長	長 岡 尾 小 笹 高 田 寺 西 大 秀 博 治 康 一
〃	佐川町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	中芸広域連合北川村消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	四万十市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	土佐町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	中芸広域連合奈半利町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	土佐市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	安芸市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	本山人町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	宿毛市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	いの町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	高幡消防組合樟原消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	室戸市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	越知町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	土佐清水市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	高幡消防組合須崎消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	高知市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	高幡消防組合中土佐消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	高幡消防組合津野消防団	部 長	員 長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	日高村消防団	団 員	員 長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	仁淀川町消防団	団 員	員 長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	南国市消防団	団 員	員 長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
福 岡 県	みやま市消防団	団 員	員 長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	吉富町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	八女市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	豊前市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	大牟田市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	小都市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	春日市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	田川市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福智町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	八女市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	大木町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	岡垣町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	大任町消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	飯塚市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	嘉麻市消防団	副団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	みやこ町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	小竹町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市八幡西消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	大牟田市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市博多消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市中央消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市戸畑消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市博多消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	豊前市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	赤村消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	みやこ町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市南消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市西消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市門司消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	大任町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市博多消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	水巻町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市早良消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市水上消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	赤村消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	豊前市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市八幡西消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	久留米市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	上毛町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	小竹町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市若松消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市若松消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	田川市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福智町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	直方市消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	北九州市小倉南消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市博多消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	福岡市博多消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	糸田町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	川崎町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	赤村消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫
〃	添田町消防団	分団長	長 高 田 大 寺 西 大 小 澤 藤 簡 中 和 静 秀 夫

都道府県名	所 属	階級	氏 名
福岡県	福岡市水上消防団	分団長	上崎 武信
	福岡市水上消防団	分団長	野瀬 春之助
	赤村消防団	分団長	久富 安之
	福岡町消防団	分団長	廣瀬 慎一
	赤村消防団	分団長	福嶋 正博
	行橋市消防団	分団長	福嶋 昭吉
	北九州市小倉北消防団	分団長	宮内 向村
	添田町消防団	分団長	武上 武樹
	吉富町消防団	分団長	矢上 頭野
	北九州市小倉南消防団	分団長	金井 子修
	大任町消防団	分団長	石崎 村貴
	吉富町消防団	分団長	岩瀬 井田
	豊前市消防団	分団長	宮内 海田
	添田町消防団	分団長	内太 茂
佐賀県	唐津市消防団	副団長	木須 須弘
	唐津市消防団	副団長	社元 克行
	唐津市消防団	副団長	演昌 隆介
	唐津市消防団	副団長	宮崎 安和
	佐賀市消防団	分団長	内太 也介
	伊万里市消防団	分団長	加茂 威修
	嬉野市消防団	分団長	木須 須弘
	唐津市消防団	分団長	永頭 健太郎
	佐賀市消防団	分団長	本島 健太郎
	みやき町消防団	分団長	谷口 田豊
	嬉野市消防団	分団長	寺田 幸幸
	佐賀市消防団	分団長	富永 智信
	唐津市消防団	分団長	永野 崎広
	唐津市消防団	分団長	波多 徳彰
	武雄市消防団	分団長	原服 巻洋
	佐賀市消防団	分団長	古川 博孝
	鹿島市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	佐賀市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	唐津市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	大町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	有田町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	鳥栖市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	吉野ヶ里町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	鳥栖市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	有田町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	吉野ヶ里町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	有田町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	上峰町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	玄海町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	江北町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	佐賀市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	多久市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	佐賀市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	玄海町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	玄海町消防団	分団長	山ノ瀬 安博
	多久市消防団	分団長	山ノ瀬 安博
長崎県	対馬市消防団	分団長	吉野 純
	時津町消防団	分団長	吉野 純
	東彼杵町消防団	分団長	吉野 純
	西海市消防団	分団長	吉野 純
	佐世保市消防団	分団長	吉野 純
	志岐市消防団	分団長	吉野 純
	川棚町消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	南島原市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	平戸市消防団	分団長	吉野 純
	対馬市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	対馬市消防団	分団長	吉野 純
	雲仙市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	大村市消防団	分団長	吉野 純
	平戸市消防団	分団長	吉野 純
	佐世保市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	対馬市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純
	長崎市消防団	分団長	吉野 純

都道府県名	所 属	階級	氏 名
長崎県	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	諫早市消防団	分団長	江崎 田
	佐々町消防団	分団長	江崎 田
	新上五島町消防団	分団長	江崎 田
	雲仙市消防団	分団長	江崎 田
	五島市消防団	分団長	江崎 田
	佐世保市消防団	分団長	江崎 田
	新上五島町消防団	分団長	江崎 田
	平戸市消防団	分団長	江崎 田
	五島市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	新上五島町消防団	分団長	江崎 田
	松浦市消防団	分団長	江崎 田
	新上五島町消防団	分団長	江崎 田
	松浦市消防団	分団長	江崎 田
	小値賀町消防団	分団長	江崎 田
	五島市消防団	分団長	江崎 田
	波佐見町消防団	分団長	江崎 田
	西海市消防団	分団長	江崎 田
	嘉島町消防団	分団長	江崎 田
	菊池市消防団	分団長	江崎 田
	山鹿市消防団	分団長	江崎 田
	菊池市消防団	分団長	江崎 田
	上天草市消防団	分団長	江崎 田
	苓北町消防団	分団長	江崎 田
	宇城市消防団	分団長	江崎 田
	山鹿市消防団	分団長	江崎 田
	山都町消防団	分団長	江崎 田
	阿蘇市消防団	分団長	江崎 田
	菊陽町消防団	分団長	江崎 田
	八代市消防団	分団長	江崎 田
	津奈木町消防団	分団長	江崎 田
	小国町消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	八代市消防団	分団長	江崎 田
	天草市消防団	分団長	江崎 田
	山江村消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	湯前町消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	天草市消防団	分団長	江崎 田
	人吉市消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	荒尾市消防団	分団長	江崎 田
	天草市消防団	分団長	江崎 田
	芦北町消防団	分団長	江崎 田
	八代市消防団	分団長	江崎 田
	八代市消防団	分団長	江崎 田
	南小国町消防団	分団長	江崎 田
	天草市消防団	分団長	江崎 田
	八代市消防団	分団長	江崎 田
	長洲町消防団	分団長	江崎 田
	宇城市消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	西原村消防団	分団長	江崎 田
	天草市消防団	分団長	江崎 田
	八代市消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	水俣市消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	相良村消防団	分団長	江崎 田
	熊本市消防団	分団長	江崎 田
	あさぎり町消防団	分団長	江崎 田
	美里町消防団	分団長	江崎 田
	永川町消防団	分団長	江崎 田
	志志市消防団	分団長	江崎 田
	甲佐町消防団	分団長	江崎 田
	佐伯市消防団	分団長	江崎 田
	日田市消防団	分団長	江崎 田
	臼杵市消防団	分団長	江崎 田
	佐伯市消防団	分団長	江崎 田
	九重町消防団	分団長	江崎 田
	玖珠町消防団	分団長	江崎 田
	日出町消防団	分団長	江崎 田
大分県	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田
	長崎市消防団	分団長	江崎 田

都道府県名	所 属	階級	氏 名
大 分 県	中津市消防団	分 団 長	池田 五吉
	杵築市消防団	分 団 長	伊東 秀敏
	大分市消防団	分 団 長	伊東 幸一
	白杵市消防団	分 団 長	萩田 英一
	宇佐市消防団	分 団 長	桃田 徳之
	大分市消防団	分 団 長	萱工 栄一
	由布市消防団	分 団 長	藤原 盛二
	別府市消防団	分 団 長	桑佐 藤一
	大分市消防団	分 団 長	佐藤 寛一
	宇佐市消防団	分 団 長	下村 孝一
	宇佐市消防団	分 団 長	中首 伸一
	国東市消防団	分 団 長	尾吉 健一郎
	中津市消防団	分 団 長	中永 日一
	中津市消防団	分 団 長	日松 限一
	大分市消防団	分 団 長	松井 義孝
	中津市消防団	分 団 長	松尾 裕和
	日田市消防団	分 団 長	渡辺 孝一
	中津市消防団	分 団 長	菊池 繁三
	別府市消防団	分 団 長	佐末 友一
	別府市消防団	分 団 長	末藤 立三
	白杵市消防団	分 団 長	梅田 隆一
	中津市消防団	分 団 長	清水 家一
	佐伯市消防団	分 団 長	清水 野一
	佐伯市消防団	分 団 長	山南 裕幸
	津久見市消防団	分 団 長	植山 健一
	中津市消防団	分 団 長	大久保 公一
	竹田市消防団	分 団 長	小野 芳一
	豊後大野市消防団	分 団 長	小澤 清一
	佐伯市消防団	分 団 長	小川 津一
	日田市消防団	分 団 長	澤村 浩一
	中津市消防団	分 団 長	澤田 浩一
	竹田市消防団	分 団 長	清田 浩一
	姫島村消防団	分 団 長	清水 也一
	豊後大野市消防団	分 団 長	清水 政一
	津久見市消防団	分 団 長	戸田 公一
	中津市消防団	分 団 長	野上 勇一
	佐伯市消防団	分 団 長	池田 文一
	宮崎県	分 団 長	池田 徳一
	都城市消防団	分 団 長	小松 樹一
	綾町消防団	分 団 長	小松 樹一
	日向市消防団	分 団 長	中甲 彦一
	五ヶ瀬町消防団	分 団 長	後藤 良一
	日南市消防団	分 団 長	藤吉 剛一
	高千穂町消防団	分 団 長	佐藤 俊一
	都城市消防団	分 団 長	末田 中一
	日南市消防団	分 団 長	恒吉 善一
	宮崎市消防団	分 団 長	米山 崎一
	日南市消防団	分 団 長	赤木 剛一
	延岡市消防団	分 団 長	方 秀一
	延岡市消防団	分 団 長	緒方 雄一
	小林市消防団	分 団 長	辛島 史一
	延岡市消防団	分 団 長	酒谷 健一
	日南市消防団	分 団 長	井口 雄一
	都城市消防団	分 団 長	萩原 幸一
	西都市消防団	分 団 長	萩原 幸一
	串間市消防団	分 団 長	松尾 直一
	都城市消防団	分 団 長	松尾 博一
	宮崎市消防団	分 団 長	大野 司一
	宮崎市消防団	分 団 長	酒匂 浩一
	三股町消防団	分 団 長	藤原 敏一
	西都市消防団	分 団 長	田原 健一
	都城市消防団	分 団 長	百吉 一
	宮崎市消防団	分 団 長	吉野 一
	門川町消防団	分 団 長	井内 彰一
	木城町消防団	分 団 長	濱田 昌一
	高原町消防団	分 団 長	森山 樹一
鹿児島県	さつま町消防団	分 団 長	井手原 美一
	大崎町消防団	分 団 長	大奥 地一
	奄美市消防団	分 団 長	奥瀬 正一
	霧島市消防団	分 団 長	瀬田 弘一
	曾於市消防団	分 団 長	曾於 義一
	枕崎市消防団	分 団 長	猪重 元一
	鹿児島市消防団	分 団 長	猪重 元一

都道府県名	所 属	階級	氏 名
鹿児島県	薩摩川内市消防団	分 団 長	明二 雄一
	垂水市消防団	分 団 長	知能 伸幸
	さつま町消防団	分 団 長	高橋 幸一
	南さつま市消防団	分 団 長	高橋 幸一
	いちき串木野市消防団	分 団 長	田徳 山一
	鹿児島市消防団	分 団 長	西之表市消防団
	西之表市消防団	分 団 長	日置市消防団
	西之表市消防団	分 団 長	西之表市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	志布志市消防団
	肝付町消防団	分 団 長	肝付町消防団
	奄美市消防団	分 団 長	奄美市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	日置市消防団	分 団 長	日置市消防団
	日置市消防団	分 団 長	日置市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	屋久島町消防団	分 団 長	屋久島町消防団
	南大隅町消防団	分 団 長	南大隅町消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	霧島市消防団	分 団 長	霧島市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	霧島市消防団	分 団 長	霧島市消防団
	薩摩川内市消防団	分 団 長	薩摩川内市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	鹿児島市消防団	分 団 長	鹿児島市消防団
	薩摩川内市消防団	分 団 長	薩摩川内市消防団
	霧島市消防団	分 団 長	霧島市消防団
	肝付町消防団	分 団 長	肝付町消防団
	肝付町消防団	分 団 長	肝付町消防団



消防庁長官表彰式



原邦彰消防庁長官 式辞

表彰旗を授与する消防機関(16機関)

都道府県名	機 関 名
北 海 道	羊蹄山ろく消防組合喜茂別消防団
〃	北後志消防組合古平消防団
〃	岩内・寿都地方消防組合神恵内消防団
〃	北後志消防組合赤井川消防団
〃	上川北部消防事務組合中川消防団
〃	白糠町白糠消防団
〃	紋別地区消防組合雄武消防団
〃	稚内地区消防事務組合豊富消防団
東 京 都	荻窪消防団
〃	御蔵島村消防団
〃	青ヶ島村消防団
神奈川県	横浜市青葉消防団
〃	横浜市都筑消防団
長 野 県	大鹿村消防団
〃	平谷村消防団
沖 縄 県	南大東村消防団



表彰旗 授与



来賓祝辞 秋本敏文日本消防協会会長



来賓祝辞 吉田義実全国消防長会会長

竿頭綬を授与する消防機関(38機関)

都道府県名	機 関 名
青 森 県	五所川原地区消防事務組合消防本部・五所川原市消防団
〃	六戸町消防団
秋 田 県	秋田市消防本部・秋田市消防団
山 形 県	尾花沢市消防本部・尾花沢市消防団
福 島 県	会津若松市消防団
〃	桑折町消防団
栃 木 県	南部須地区広域行政事務組合消防本部・那珂川町消防団
群 馬 県	吾妻広域消防本部・中之条町消防団
埼 玉 県	狭山市消防団
〃	戸田市消防団
東 京 都	荒川消防団
〃	麹町消防団
〃	調布市消防団
神奈川県	厚本市消防本部・厚本市消防団
〃	伊勢原市消防本部・伊勢原市消防団
新 潟 県	加茂地域消防本部・加茂市消防団
長 野 県	松本広域消防局・安曇野市消防団
〃	千曲坂城消防本部・坂城町消防団
岐 阜 県	瑞穂市消防団
〃	山県市消防団
静 岡 県	掛川市消防本部・掛川市消防団
〃	御前崎市消防本部・御前崎市消防団
愛 知 県	豊橋市消防本部・豊橋市消防団
三 重 県	桑名市消防本部・桑名市消防団
滋 賀 県	湖北地域消防本部・長浜市消防団・米原市消防団
京 都 府	京都市右京消防団
兵 庫 県	市川町消防団
〃	小野市消防団
奈 良 県	天理市消防団
岡 山 県	矢掛町消防団
香 川 県	宇多津町消防団
長 崎 県	新上五島町消防本部・新上五島町消防団
熊 本 県	大津町消防団
〃	上球磨消防組合消防本部・多良木町消防団
大 分 県	大分市消防局・大分市消防団
宮 崎 県	西臼杵広域行政事務組合消防本部・日之影町消防団
鹿児島県	阿久根市消防団
〃	大島地区消防組合消防本部・宇検村消防団

第28回 防災まちづくり大賞 受賞団体の決定

総務省消防庁 地域防災室

令和6年2月27日(火)、ホテルルポール麹町(東京都千代田区)において、第28回防災まちづくり大賞表彰式を開催しました。

「防災まちづくり大賞」は、阪神・淡路大震災を契機に平成8年度に創設され、今回で28回目を迎えました。地域に根ざした団体・組織等、多様な主体における防災に関する優れた取組や、防災・減災、住宅防火に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強い安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施しています。



主催者挨拶をする馬場総務副大臣



表彰状授与の様子

今回は全国各地から55事例の応募があり、学識経験者等で構成される選定会議において、他の地域の模範となる優れた17事例が選定されました。

受賞事例数

応募総数		55
表彰区分	総務大臣賞	3
	消防庁長官賞	5
	日本防火・防災協会会長賞	9
受賞事例総数		17

災害による被害を軽減するためには、地域の防災力を強化すること、とりわけ地域の方々の「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い意識と連帯感に支えられた自主的な防災活動を推進していただくことが重要です。

平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、住民、自主防災組織、消防団、地方公共団体、国等の多様な主体が、相互に連携協力して、地域防災力を高めていくことの重要性が示されました。

受賞団体の皆様には、今回の受賞を契機として、より一層日頃からの活動を充実・発展させ、引き続き、地域防災力の向上にご尽力いただくことを期待しています。



総務大臣賞受賞団体(3団体)との記念撮影



デジタルとリアルを融合した 入団促進事業

北海道 札幌市消防団

1 背景

消防団は地域防災の中核として、災害時の対応や地域の防災活動を推進するうえで欠かせない存在であるが、全国的に消防団員数の減少と高齢化が進展してきている中、札幌市についても同様の傾向であり、令和2年4月1日の消防団員数は過去最低実員数となった。

このような危機的状況を受け、令和2年度から総務省消防庁の消防団加入促進支援事業（現在の「消防団の力向上モデル事業」、以下「力向上モデル事業」という。）を活用し、女性・若者を対象としたリーフレットやPR動画の作成、SNSでの広報を実施したほか、市内10消防団の入団促進活動においても積極的に活用したことで、団員数の減少に歯止めをかけることができた。

そこで、令和5年度においても「力向上モデル事業」を活用し、デジタル媒体を用いた広報は継続しつつ、それと連動するようリアル広報を実施することで広報効果を持続・発展させるとともに、新たに学生消防団員が主体となって実施する事業を増やすことで、消防団組織の若返りと活性化を推進することを目的に本事業を実施した。

2 取組内容

(1) デジタル媒体を活用した広報

- 令和3年度、4年度に制作した広報素材の活用
 - ・ Web、SNS用の広告バナーや広報動画
- 女性や若者へ訴求効果の高いデジタル媒体を活用した広報
 - ・ YouTube広告・Instagram広告
 - ・ 街頭大型ビジョンやデジタルサイネージによる動画放映
- 各広報素材の遷移先となる専用のランディングページ
- 各企業のホームページへの入団PRバナー掲載依頼 など

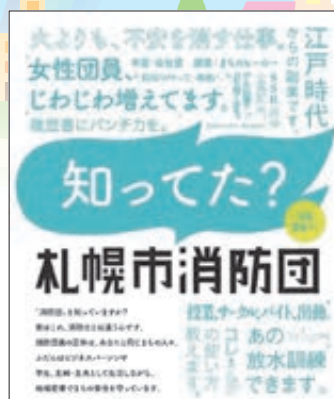
(2) リアル(体験型)イベントの開催など

- マスコットキャラクターの着ぐるみ作成
- マスコットキャラクターを活用したアクリルキーホルダー、付箋の作成
- 学生団体と協力した広報紙配布
- 区防災展で入団PR
- 札幌市消防局消防音楽隊のコンサートに合わせた入団PR
- 学生向け広報紙及び事業所向け広報紙の作成
- 地域情報誌への入団PR記事の掲載
- 新興住宅街へのリーフレット戸別配布 など
- 入団促進キャンペーン(令和5年10月15日から12月13日)

消防本部と市内10消防団のほか、民間企業や大学などとも連携し、ポスター掲示、リーフレット配布、広報情報紙への記事掲載など、多角的に入団促進事業を実施。



札幌市消防団PRキャラクター「しょぼにん」



札幌市消防団広報リーフレットデザイン

(3) 学生消防団員の取組み

- 多くの市民が集まるイベントや防災行事等で学生消防団員が主体となって指導
- 商業施設のイベントスペースを活用し、学生団員の企画・運営による消防防災展を開催
- 学生消防団員によるグループワーク
 - ・ 消防団の垣根を超えた関係性づくり
 - ・ 効果的な入団促進手法についてグループワーク
 - ・ 部活やサークルのように学校内で消防団員が途切れない仕組み「消防団の輪」についてのグループワーク
- 消防団幹部との交流会
 - ・ グループワークの結果などを組織に還元

3 成果

若い世代に訴求効果が高い、YouTubeやInstagramのデジタル広告媒体を活用した広報が功を奏したと評価している。

- (1) 全入団者のうち35歳以下の若い世代の占める割合
事業実施前36% ⇒ 実施後41% ※5ポイント上昇
- (2) 全団員に占める学生消防団員の割合
事業実施前2.7% ⇒ 実施後5.1% ※2.4ポイント上昇
- (3) 年中入団者数124人(前年度比+3人)
- (4) 全消防団員数1,748人(前年度比▲13人)
- (5) 平均年齢51.8歳(前年度比+0.4歳)

4 課題

年度中に入団者数は増加しているものの、退団者数がそれを上回っているため、結果として団員数の減少に繋がっている。また、未だに消防団員の平均年齢は高く高齢化が進展しているため、消防団の若返りと活性化を推進する取組みのほか、退団抑制のための取組みが必要である。

5 今後の展望

YouTubeやInstagramのデジタル媒体を用いた広報手法は、若年層への訴求効果が高いため、取組効果を検証しながら事業を継続していく。

併せて、マスコットキャラクターやPRグッズなどの広報素材を活用して、市民と消防団員が直接接する機会を増やすなど、デジタルとリアルを融合した入団促進事業をより強力に推し進めることで、子供から大人まで幅広い世代の認知度の向上につなげていく。



消防団員と団員のご家族に 感謝の気持ちを

栃木県 宇都宮市消防団

宇都宮市は、栃木県のほぼ中央に位置し、北西に日光連山、北に那須連山を望み、東に鬼怒川の清流、南には広大な関東平野がひらけ、美しい豊かな自然に恵まれた人口約52万人が暮らす中核市です。

昨年8月には、次世代型路面電車「LRT」が開業し、誰もが移動しやすい総合的な交通ネットワークの構築に取り組むなど、「ネットワーク型コンパクトシティ」を都市像に掲げ、発展を続けています。

1 宇都宮市消防団の紹介と現況

宇都宮市消防団は1団26分団で構成され、団員定数を2,150名に定め、令和5年4月1日現在、1,937名が在籍し充足率は90.1%となっています。これまで、安全装備の整備はもとより、報酬の引き上げや「消防団協力事業所制度」等の各種制度の導入、市内の高校や大学に消防団員が出向き、消防団の活動や魅力について発信する防災教育を実施するなど、あらゆる機会を捉え消防団員の確保に取り組んでまいりましたが、少子高齢化や人口減少などの影響により、消防団員数は年々減少していることから、消防団員の確保が課題となっております。

2 事業内容

本市消防団では、多くの市民の皆様には消防団の魅力をPRし、入団促進を図るとともに、消防団員とそこそご家族の労をねぎらうことを目的として、毎年9月に「消防団まつり」を開催しています。

平成27年度の初開催から、コロナ禍を経て4年ぶり6回目の開催となる「消防団まつり」は、子供から大人まで楽しめるよう、たくさんの催し物を消防団員自らが企画しており、ステージ上では消防団員による替え歌「消防団員365歩のマーチ」や「和太鼓演奏」、女性団員が考案した「子供向け防災教室」や「心肺蘇生体操」などが披露されました。

また、会場内では、鮎の塩焼きやステーキ丼、かき氷などの飲食をはじめ、金魚すくいや射的、農産物販売など、消防団員が25の模擬店を出店し、行列ができる店舗がでるなど、大盛況となりました。



開催ポスター



3 事業の成果

来場された方々には、今回のイベントを通して消防団をより身近な存在として感じてもらえることができ、消防団の魅力をPRできたと感じております。

今後もこのような活動を継続し、地域防災の中核を担う消防団の活性化と団員の確保に取り組んでいきたいと考えております。

また、今年9月には、「全国女性消防団員活性化とちぎ大会」を宇都宮市で開催しますので、多くの方々が栃木県にお越しくださることを期待しております。



ステージ催し物の様子



消防団員による模擬店



時代に即した消防団運営を目指して ～10年先の消防団員のやりがい向上のために今できること～

大阪府 富田林市消防団

1 富田林市消防団の紹介と現状

富田林市消防団は、団員325名（うち女性11名、学生6名）、1本部3方面隊14分団1機能別分団（特殊技能隊）で構成される組織です。

大阪府東南部に位置する富田林市は、歴史的に貴重な街並みが残されている寺内町、南部には金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、西部丘陵地域は計画的に開発の進んだニュータウンとなっています。

地理的背景から近年はベッドタウンとしての側面もあり、消防団員のサラリーマン化（市外勤務団員）、人口減少社会に比例した消防団員数の減少、高齢化等の諸課題がありましたが、近年様々な施策を実行し令和元年以降、消防団員数は増加を続けております。また、若者層の入団も増えてきています。

2 富田林市消防団活性化計画の策定

時代に即した消防団運営を目指すにあたり、基本的な考え方を示した計画を策定しました。

- ①消防団100年以上の歴史、伝統を守りながらも、目まぐるしく変化する社会、災害に対応出来る消防団運営とすること。
- ②広報活動の充実強化
- ③装備等の充実
- ④女性・学生の入団促進
- ⑤若者の意見を反映できる等風通しのよい組織を作ること
- ⑥消防団員がやりがいを見いだせる活動を増やすこと

計画を策定することにより、目指すべき消防団像の意思統一を図ることができ、以降の事業がスムーズに進むことになったと感じています。

3 活性化計画に沿った実施事業

令和2年度	女性団員・学生団員の入団（学生消防団活動認証制度） 広報部の創設
令和3年度	若手消防団員連絡協議会創設 方面隊単位の定例訓練を実施（月1回） 『消防団・自主防災組織等連携促進支援事業』の採択を受け自主防災組織等への指導力強化及び連携強化を実施 ガンタイプノズル導入



令和4年度	大阪府消防操法訓練大会 ポンプ車操法の部 優勝 小型ポンプ操法の部 優勝 全国消防操法大会出場(小型ポンプ操法の部) 消防団員マイカー保険加入 休団制度導入 入団エントリーフォーム作成
令和5年度	高性能防火衣導入 方面隊再編

4 広報活動

広報の目的として、大きく4つを掲げました。

- ①デジタルアーカイブ(災害記録を未来に活かす)
- ②消防団の歴史を未来に繋ぐ
- ③消防団活動を市民に知ってもらう
- ④分団間の交流を深める

広報活動を強化して以降、消防団員自身もホームページを見る機会が増え、また、市民からも楽しみにしている等の声をいただき、消防団のイメージアップ、認知度の向上、ホームページを閲覧し入団にいたる若者団員も増加しました。何より消防団員のやりがいの向上に繋がっています。



入団エントリー画像

5 装備等の充実

消防団員が安全に活動出来るように40mmガンタイプノズル及び高性能防火衣を導入しました。ガンタイプノズルを導入したことにより、戦術の変更等があり実践的な訓練回数が増加することとなりました。高性能防火衣は、セパレート型で機能性・安全性向上はもちろんですが、デザインにもこだわり一目で消防団員であることが解ること、所属分団等が識別できること、また、若年層からも消防団はカッコいいと思ってもらえるようなデザインを考慮し企画制作しました。結果、消防団員の士気もあがり現場活動では以前にも増して凛々しく見えるように感じます。



火災時活動状況・ガンタイプノズル・
高性能防火衣着用

6 実践的な訓練

火災対応訓練はもちろんのこと、大規模災害時に使用するチェーンソー取扱い、遠距離送水訓練等々様々な訓練を実施しています。消防操法訓練大会に向けての訓練も、『絶対に怪我人は出さない』を合言葉に、以前からの方針を転換し、長期間、長時間、大人数、規律重視を止め、より実践的な訓練を重視して取り組み成果をあげました。また、同時に座学も定期的の実施し、インセンティブに繋がる内容から消防団員としてのコンプライアンス研修等幅広く実施しています。

うちの

名物団員



金沢市第一消防団 崎浦分団 班長

安田 ^{ただし} 整

金沢市第一消防団からは、崎浦分団の安田整班長を紹介します。

三百年以上前に発祥した加賀鳶の流れを受け継ぐ加賀鳶梯子登り。安田さんは、その演技指導者を二十年間も務めています。丁寧かつ、熱い指導で、誰からも信頼が厚く、安田さんから指導を受ける団員は、勇壮・華麗な演技の技術面はもちろん、気風や心意気をも確実に受け継いでいます。

安田さんのような方々のおかげで加賀鳶梯子登りは脈々と後世へと繋げていけるのです。



久米南町消防団 女性部 班長

近行 ^{みちの} 敏子

久米南町消防団の名物団員は、平成22年の久米南町消防団女性部の発足時からのメンバーの近行敏子さんです。平成29年に行われた第23回全国女性活性化広島大会で披露した防火啓発劇では、

パンチパーマのスケ番姐御を演じました。とてつもなく温厚な人柄で、自分の失敗も人の失敗も笑い飛ばしてくれます。少し甲高い声で凄みは全くありません。そんな近行さんは地域の高齢者施設のデイサービスで介護員として働かれています。大人気間違いなしです。



石川
県

岡
山
県

石井町消防団から、当団の現役最年長、北野政男副団長をご紹介します。

北野副団長は、昭和53年に入団して現在46年目。団の生き字引として後輩たちにその背中を見せる超ベテランですが、時には、趣味の域を大きく超えたこだわりと腕前で、訓練活動を記録するカメラマンとなり、消防はっぴを脱げば、東京ドームの面積を優に超える6ヘクタール以上、50枚の田を耕作する農業の担い手でもあるなど、多彩な顔を持つ、わが団の名物団員です。



宮崎県小林市消防団からは、川俣幸治さんをご紹介します。

川俣さんは、普段は社会福祉協議会の職員として地域福祉の仕事をしています。

そんな川俣さんは、一般消防団員として活躍する傍ら、趣味のドローンの知識・技術を生かし消防団用ドローン導入のアドバイザーとして頼もしい存在です。ドローン隊発足後もますますの活躍が期待されます。



消防団の広場

三重県

「時代に即した消防団のあり方を目指して」

津市消防団
団長

磯田 泰之



津市は、三重県の中央部に位置し、広大な市域の中で、豊かな自然環境に恵まれながら、県都（県庁所在地）として都市機能が集積した地域でもあり、中部圏と近畿圏の結節点として、交通ネットワークの拠点ともなっています。

津市消防団は、10方面団73分団で構成され、団員数2,015人（令和6年1月1日現在）が生業の傍ら、市民の安全・安心を守るために市内の各地域で活動しています。

津市消防団では、減少傾向にある消防団員の確保と多様な消防団のあり方を目指し、機能別団員の拡充を図ってきました。消防団員OBで構成された一般機能別団員や市内の大学等と連携した学生機能別団員に加え、令和5年11月には、救急現場に出動し傷病者の応急手当を行う全国初の事業所機能別団員 First Aid Member（通称FAM）を創設しました。

事業所機能別団員（FAM）は、市内の企業等の従業員で構成され、就業時間帯に限定して災害活動を行います。主な活動内容としては、事業所近隣で発生した救急要請事案におけるAEDを使用しての応急手当や、事業所近隣で発生した火災や大規模災害時における避難誘導等の後方支援活動で、サラリーマン団員が7割を占める津市消防団において、日中の消防力の空洞化への対策としても期待されています。

1月7日に開催された令和6年津市消防出初式では、事業所機能別団員（FAM）と、令和5年12月に運用が開始された、救急要請が頻発する時間帯に、必要とされる地域に移動配備する機動的救急隊 Move Over Ambulance（通称M.O.A.）との連携訓練を実施し、心停止状態の傷病者にAEDを用いた心肺蘇生法を行い、到着した救急隊に应急手当の内容を正確に引き継ぐ姿を披露しました。

今後も、機能別団員に限らず、時代に即した消防団のあり方を模索しながら、地域防災の要としての自覚を忘れることなく、消防団活動に励んでいきます。



出初式での一斉放水



FAM及びM.O.A.連携訓練

2024年度 全国統一防火標語

「守りたい 未来があるから 火の用心」

令和6年5月の日本消防協会関係行事

5月13日(月)	監事監査(消防育英会)
5月20日(月)～22日(水)	会計監査人監査(日本消防協会・全日本消防人共済会)
5月25日(土)～26日(日)	青少年消防オリンピック事前訓練
5月27日(月)	第1回福祉共済事業等運営委員会・監事監査(日本消防協会)
	定期監査(全日本消防人共済会)
5月28日(火)	定時理事会(消防育英会)

編集後記

本号から、「日本消防」の編集を担当することになりましたT.I(滋賀県から派遣)です。
さて、花が芽吹き春の心地よさ漂う季節となりました。春は出会いと別れの季節でもあり、寂しさ
と期待の入り混じった季節ではないでしょうか。

当協会においても、地元へ帰られた研修生、本当にお疲れさまでした。それぞれの派遣元に帰り、
地域の皆様と共に「安心と安全」を提供していただいていることでしょう。また、新たに当協会に
来られた研修生を迎え、期待と不安の中、新年度がスタートしました。

近年災害の様相も変わり、それに備えていただいている読者の皆様に、少しでも多くの取組や有益
な情報をお届け出来ればと思っております。どうぞ一年間よろしく願いいたします。(T.I)

令和6年度のスタートです。年度の開始は、やはり身が引き締まる思いが致しますが、今年度はと
りわけです。本当にいよいよ新会館が8月中旬に完成、日本消防防災情報センターやニッショーホー
ルもオープンです。盛りだくさんの各種記念事業も開催されます。

今月号の表紙は、石川県穴水町の「能登さくら駅」。県消防協会経由での町からの提供で、写真自
体は去年のものとのことですが、鉄道は正に今月6日に全線開通とのこと。今年も桜を地元の皆さん
が楽しむことができたことを切に願っています。原消防庁長官のいつもながらの歯切れのいいラジオ
でのお話を本誌で紹介。先月ご紹介した室崎先生の講演「能登半島地震とコミュニティの役割」を当
協会HPにアップしましたので、是非ご覧に。連載企画「消防団加入促進への取組み」への寄稿も是非
宜しく。(Y.T)

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問
い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,496円
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9401

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より
充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、
多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十七巻第四号
令和六年四月五日印刷
令和六年四月十日発行

編集人 田中 豊

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区東新橋一丁目十九

電話 〇三(6263)九四〇一(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六―二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金 補償倍率UP 300倍から750倍へ

**消防団員
消防職員
なれどなたでも
加入できます**

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

**消防団
消防本部**

毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

**落雷の損害
にも対応!!**

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。

**お支払
対象**

●

火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●

風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

●

地震等災害見舞金

地震・津波・噴火



ひまわりしているか
ひのようじん

生活協同組合 全日本消防人共済会

詳しくはホームページをご覧ください

TEL 03-6263-9822

<http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円（ゆうちょ
銀行は五千円）から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金（6種類）又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金（脱退一時金）
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

(公財)日本消防協会

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19
ヤクルト本社ビル内
TEL.(03)6263-9401 (代表)
<https://www.nissho.or.jp>

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会